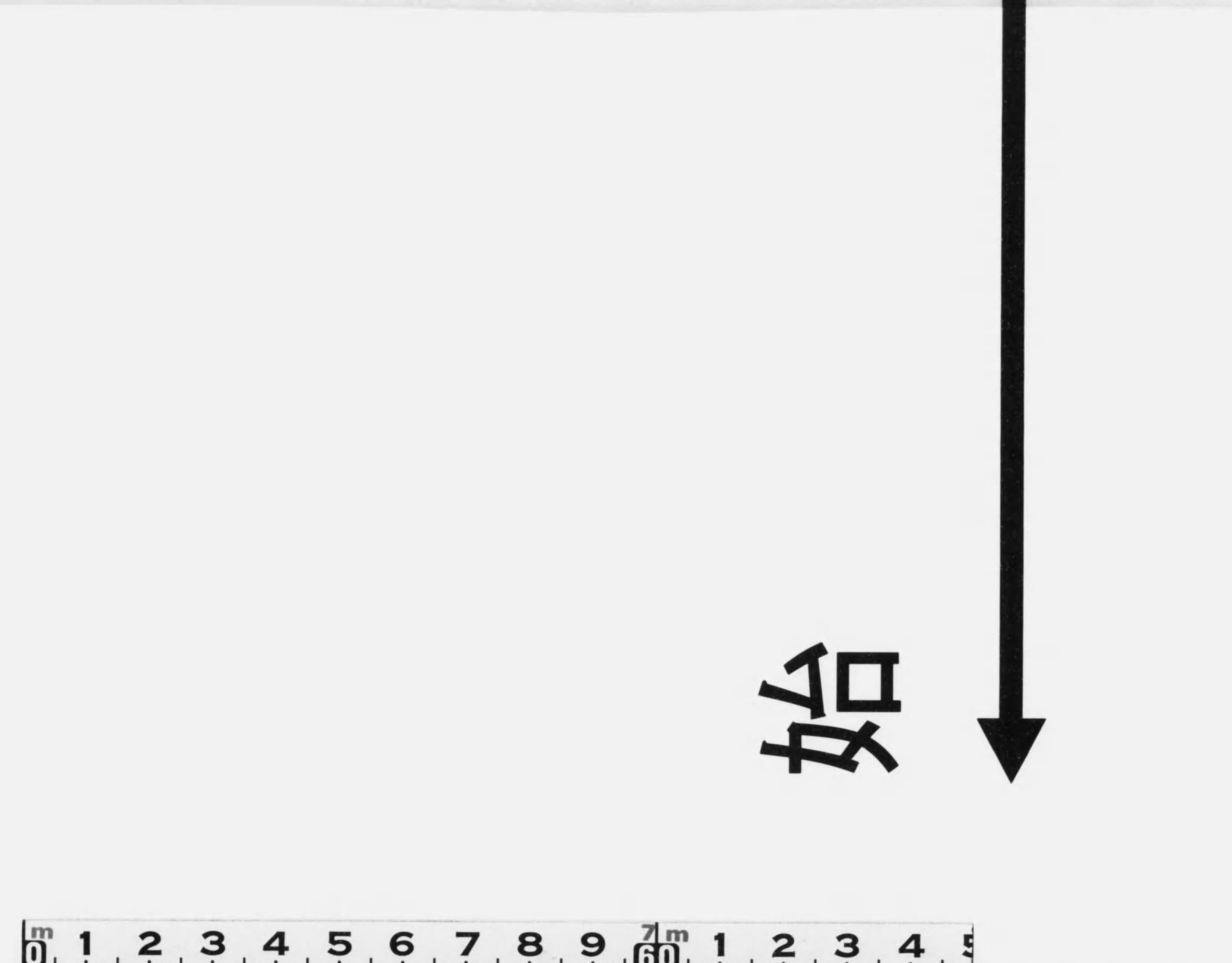
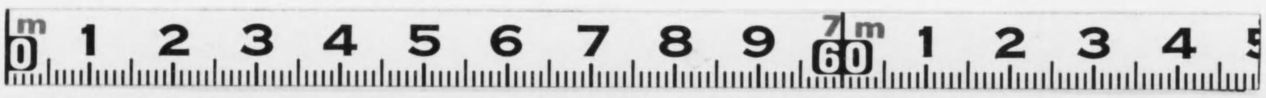
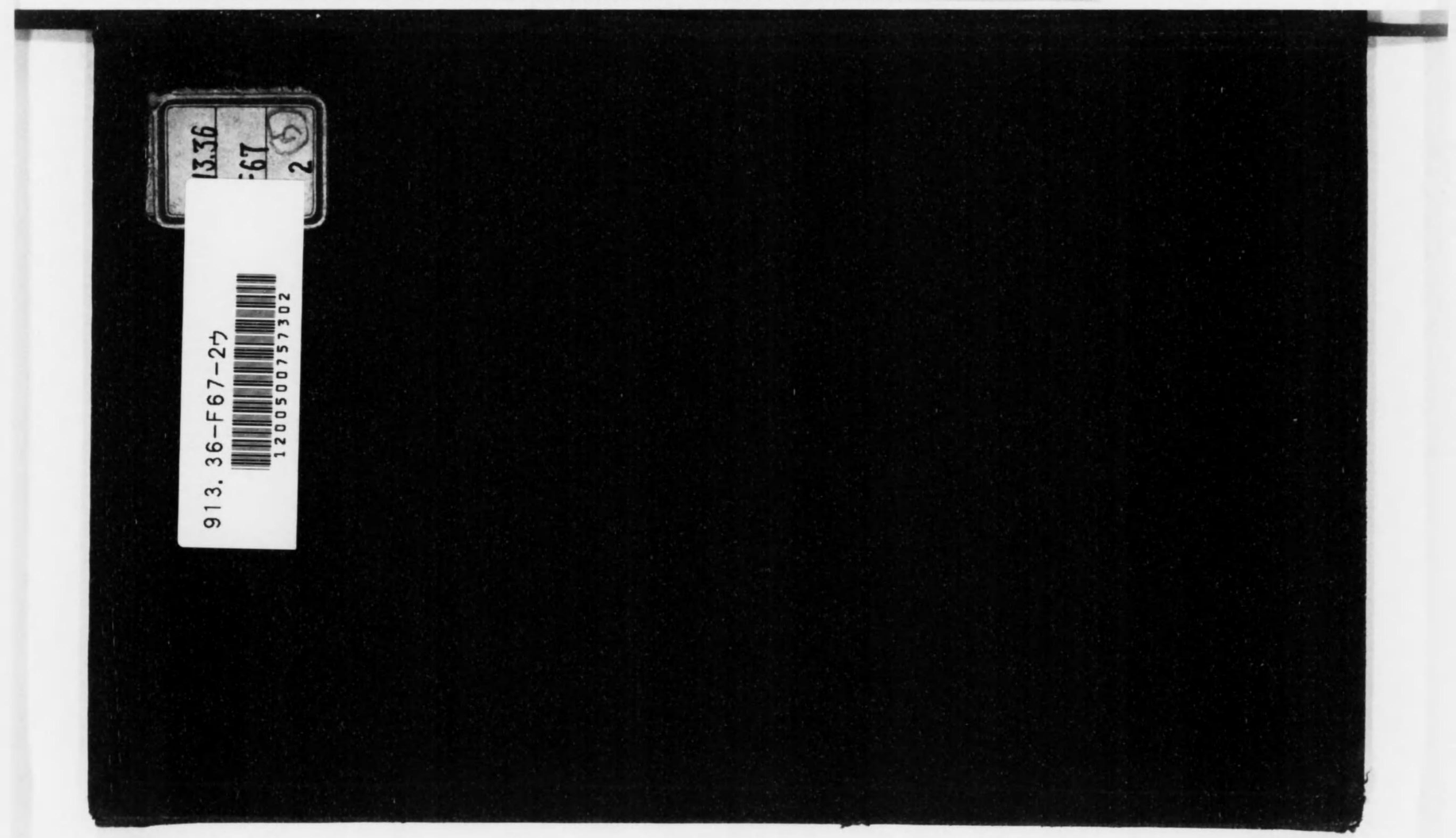





913.36
F67
2
913.36-F67-2
1200500757302

91336
F67
2

浦和高等學校 教授
藤田德太郎 著

源氏物語研究書目要覽

東京 六文館 版

昭和七

一、岷江入楚（中院通勝）　自筆稿本か　京都帝國大學所藏

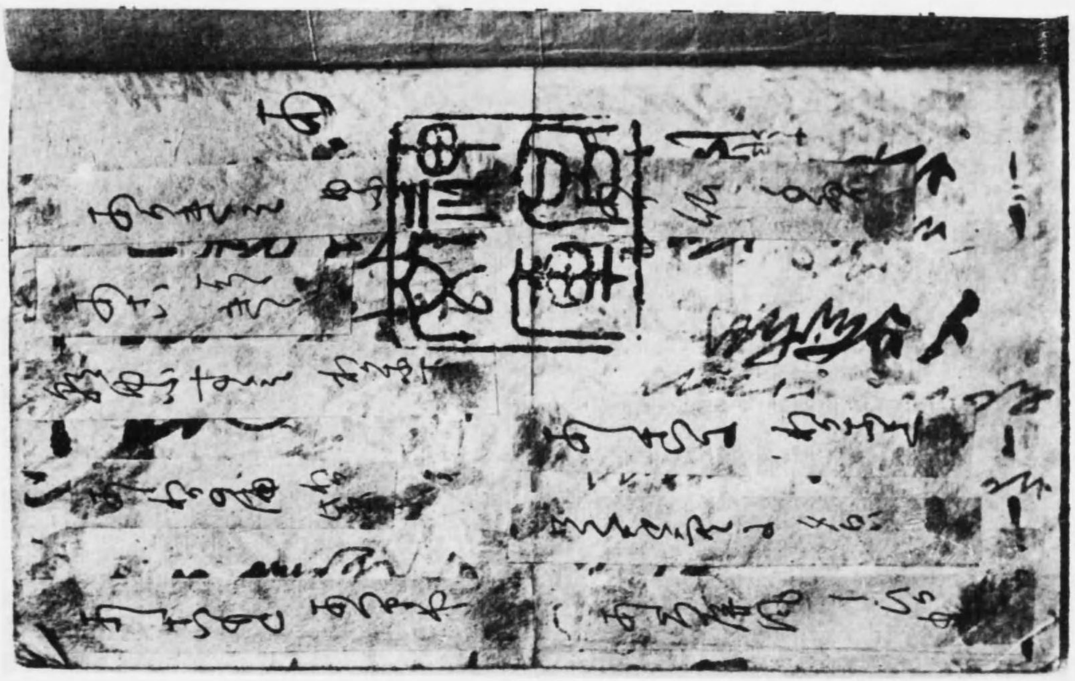
中院家の舊藏本で、原本には、訂正加筆のあとが甚だ多い。故に、自筆稿本かと推測せられる。四冊の零本である。此の寫眞は註釋書を代表せしめる。

紅葉賀　賀宴詞心々付くる寿名々
[illegible]寿ことほぎ賀として祝ふ詞多く寿の字ありて此時の事なれば紅葉の賀と云ふ
[illegible]
[illegible]賀の字を賀の字に用ひたるは
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二、源氏物語類語（足代弘訓）自筆稿本

神宮文庫所藏

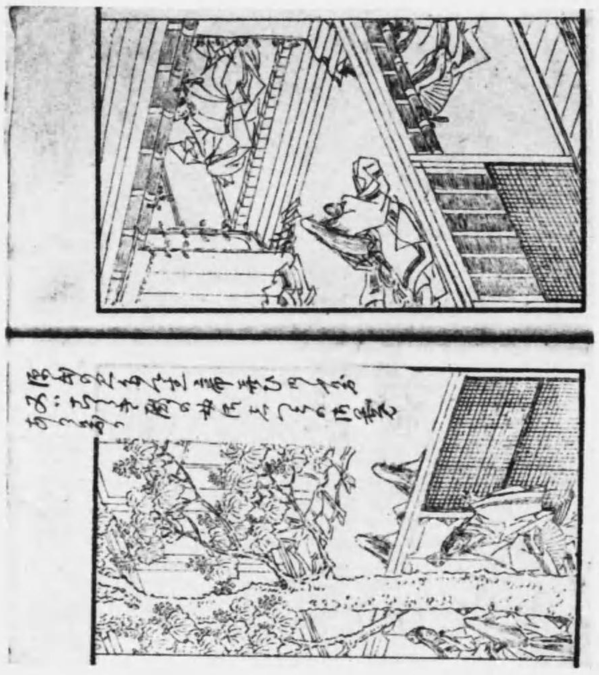
足代弘訓は伊勢大神宮の神官であつたから、従つて、その自筆稿本は神宮文庫に殘されてゐる。此の稿本は、初め一紙に單語卷名等を書き抜いて書き續けたものを、後に、一行々々切りはなして、五十音順に整理し、更にこれを別の反古紙の裏面に順序よく貼り附けたものである。索引製作の方法としては最も簡便な方法で、今日のカード式索引製作の方法以外に、古人の索引製作の跡をそのまま殘してゐる所に興味がある。此の寫眞は辭書又は索引類を代表せしめる。

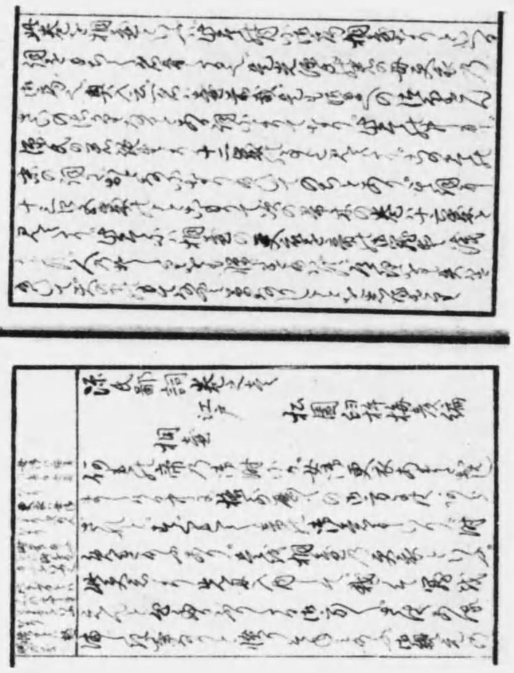


三、源氏鄙詞（臼杵梅彦）　版下本

帝國圖書館所藏

四六版型の本である。挿繪の版下書など興味が深いので、上段に本文の寫眞を、下段に挿繪の寫眞を揭げた。挿繪は何れも見開きの二頁大に記され、一々その圖の說明が貼紙してある。本書の奥には「山もとや平吉梓」と發行書肆の名を記した奥付まで出來てゐるが、遂に、刊行せられなかつたらしい。此の寫眞は原文拔萃譯文飜案の書を代表せしめる。





四、掌中源氏物語年立（横山由清）　自筆稿本　佐佐木信綱博士所藏

薄葉紙に細字で清書したもの。全四葉の甚だ簡便な年表である。此の寫眞は年表系圖類を代表せしめる。

掌中源氏物語年立

	桐壺更衣トキメキ玉フ	
	源氏君生レタマフ	源氏一歳
桐	源氏着袴 更衣ウセタマフ 三位ヲオクラル	二歳
	一宮立坊 後ニ朱雀院ト申ス 年立不詳オホヨタ此年ノ春ナルヘシ	三
		四
		五
	源氏ノ外祖母更衣ノ母ウセ玉フ	六
	源氏御フミハシメ	七
壺	八歳ヨリ十一歳マテノ間年立詳ナラス ○高麗人源氏ヲ相ス 年立不詳	八
		九
	○藤壺女御入内後薄雲女院ト申ス 月	十
		十一
	源氏元服ソノ夜左大臣ノ御女葵上ニ聟トリ玉フ 二条院ヲ造ラル	十二
	○源氏十三ヨリ十六マテノフ物語ナシ	十三
	○源氏任中將 年立不詳	十四
	○今年ノ春玉葛生ユヲコス	十五
帚木	夏 雨夜ノ品定 源氏方違ニ中川ノ家ニヤトリ空蟬ニアヒ玉フ	十六

五、源語提要　（村田春海）　版下本か

神宮文庫所蔵

本書もその寫本の甚だ整備してゐる點より版下本と認められる。村田春海の著として
は世に知られなかつた珍しい書である。後人がその出版を企圖したものであらうが、
遂に出版せられなかつたらしい。此の寫眞は解題書を代表せしめる。

神皇正統記
江藩文庫

六、底の玉藻（堀内昌郷）　自筆稿本　京都帝國大學所藏

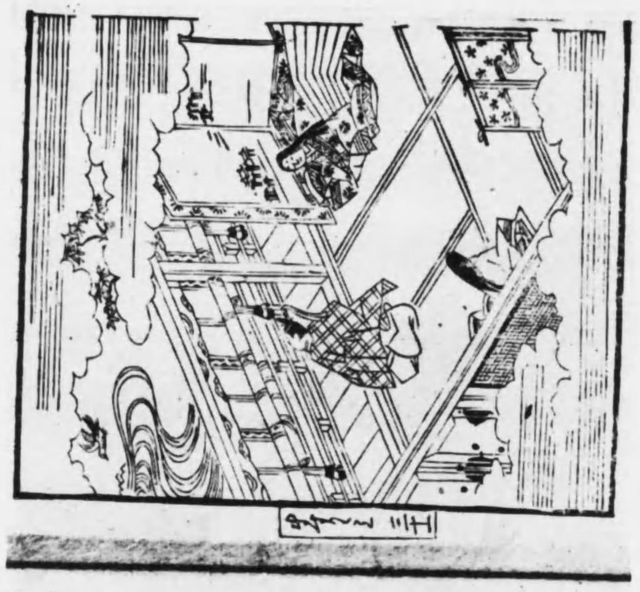
大判の自家用型紙に書き認めた自筆稿本である。甚だ大部の著書であるが、源氏紐鏡の原本として興味が深い。此の寫眞は批評書を代表せしめる。

底迺玉藻一名巻

けれの夜かれ博士多ちたるがたのれひとりこの
しをうけふいひ出こうしるともかけれをかし
くはかれつるを聞して准拠の丁寧ともゆゑ何
りけふいつるがこゝ後にくて一日ゆゑて例の物
語のるまをいひ出て聞へれいふやう准拠といふ
まちれこそハ作まれんのうちにあるこそにて是を
いまれ此ようとかくいまむれいうれるわさふは
何物とけてやむへおもあらをんのたよりいむ限

七、源氏增鏡（宗祇）　寛文十二年版　京都帝國大學所藏

本書は半紙判の二冊本であるが、甚だ希覯書に屬する。但し、宗祇の著とするには疑ひなきを得ないが、版本では宗祇の著とし、元祿書籍目錄にも「五（冊）　同增鏡　宗祇作、定家引歌　五匁八分」などと見えてゐる。此の寫眞は源氏物語の影響書を代表せしめる。



八、源氏繪抄（松井祐孝）　自筆稿本

大島雅太郎氏所藏

本書も版下本と思はれ、扉などもそなはつてゐる。花鳥風月の四冊より成る。繪には薄墨の色彩が施してあり、美濃判の極めて新本である。但し、本書は出版せられなかつたらしいが、同種の繪本は種々出てゐる。菱川派の源氏繪本に對し、土佐派の流を汲む著者が、本書の出版を企圖したものであらう。本書は又上方に梗概が記してあつて概概書の用をもなす、甚だ趣美多き繪本である。よつて、此の寫眞は、梗概書及び繪圖の類を代表せしめる。

620-8

自序

源氏のものがたりを、ときあきらめつるくさ〴〵の書ども、あるはうつしまきとし、あるは、梓にふりて、まなびの友がきらが眼にとまりしもの、古へより今のうつゝに、その數はしもすくなからず。牛の汗する事、戀草の力車に七車積みかさねたらんもかくやと思はれ、棟に充ちぬる事、さき草の三つば四つばに富み廣ごれる殿造りもさくやあらんとあやぶまるゝほどにこそ。おのれ物語ぶみにすきて、讀みこゝろみる事、度まねく、ここに年月をすごせしが、はやくより、かゝる物學びのふみどもを、しらべきはめて、初學びのたすけともし、世のあやまりをもたゞせしふみのなかめるをうれたみて、此の物語の學びのふみどもを、ときあかさんの心ざし深くきざしぬれば、をぢなき身の、より〴〵に見聞きせし片はしを、

おろ〳〵書きつけおきし心覺えのふみまきどもを、ふ机のほとりに、やゝ高くなりぬ。さるをこたび、ふみやのあるじの請にまかせて、折こそよけれと、片なりのふみまきをしも、與ふるものならし。さるは、此の月頃、そとには、すめらみ國のたけきいくさども、しこともしこつゑびすのきたなきから心を、なほくたゞしきやまとだましひもて、うちなびけ、わたくしごとなれども、うちには、おのが師、佐佐木信綱先生、還暦の御賀を迎へ給ふ事なれば、よろこびわざのうちつゞくまにまに、もだもえあらず、言あげせし心のうちは、八百日ゆく濱のまさごの、その一つにも足らぬ言の葉の數なりかし。

あめつちに滿ちとほりぬる國たみはいのちさかえて生きざらめやも

二千五百九十二年三月　著者識

目次

自序　一
目次　三
凡例　三

源氏物語研究書目要覽

一、全卷註釋　三四
二、一部註釋　四一
三、雜纂摘註　四九
四、辭解類語索引

目次　一

五、梗概摘要　六〇
六、原文拔萃　七六
七、有職故實　八五
八、譯文飜案　八八
九、年表系圖　九六
十、大意解說　一〇三
十一、批判論評　一〇七
十二、和歌抄出　一一五
十三、故事引歌　一一九
十四、詠源氏物語詩歌　一二一
十五、繪圖　一三〇
十六、內容不明　一三九

源氏物語研究書目年表

鎌倉時代　一四五
南北朝時代　一四七
室町時代　一四八
戰國時代　一四九
德川時代　一五六
明治時代　一五七
大正、昭和時代　一七九
一八二
一八九
一九〇
一九五

源氏物語研究書系統表

舊註系統表
新註系統表

索引
書名索引
人名索引
後記
口絵
一、岷江入楚（自筆稿本か）　中院通勝　一九九
二、源氏物語類語（自筆稿本）　足代弘訓　二〇一
三、源氏鄙詞（版下本）　臼杵梅彦　二三四
四、掌中源氏物語年立（自筆稿本）　横山由清　二五一
五、源語提要（版下本か）　村田春海

六、底の玉藻（自筆稿本）　堀内昌郷
七、源氏增鏡（寛文十二年刊）　宗祇
八、源氏繪抄（自筆版下本）　松井文正祐孝

凡例

一、本書は、源氏物語の註釋書類より畫圖の類に至るまで、研究的意義、或ひは普及的意義のある書の書目を掲げ、簡單な解題を施したものである。本書に掲げた書は、それが、源氏物語を理解するのに役立つものである事を主眼とした。

一、從つて、源氏物語の校本、書入本の類もあげるべきであるが、今それに及ぶ餘裕がなかつた。今後本文の補訂と共に、その方面の解説をも物したいと思つてゐる。

一、十六類に類別し、書名、卷數、著者名、寫本か又は刊本ならば刊年を掲げ、次に解説を書き、終に、その本の所有者を記した。

一、解説は、その書の題名、內容、著作年月を、特に注意して記した。

一、本の所有者は、筆者の見たものを主として掲げた。但し、便宜上名高い文庫にあるものを附記した書もある。又、所有者を掲げる必要のない流布してゐる本や、活版本、飜刻本の類

は記さなかつた。中には、著者の不注意から、その所在の分らないものも若干ある。他書の解題によつたものは大抵その旨を記しておいたが、參考したにとゞめて、多く私見によつて解說を加へたものは、一々その引據を揭げなかつた。

一、公私の圖書館は多く略符號を用ゐた。即ち、次の如くである。（五十音順）

〔阿〕——德島光慶圖書館阿波國文庫
〔京〕——京都帝國大學附屬圖書館又は研究室
〔國〕——國學院大學國語國文研究室
〔彰〕——水戸彰考館文庫
〔神〕——伊勢神宮文庫
〔靜〕——靜嘉堂文庫
〔帝〕——帝國圖書館
〔圖〕——宮內省圖書寮
〔東〕——東京帝國大學附屬圖書館又は研究室
〔內〕——內閣文庫
〔文〕——東京文理科大學附屬圖書館
〔北〕——東北帝國大學附屬圖書館
〔無〕——無窮會神習文庫

一、諸書目に見える書名は大抵收載してあるが、中には、異名同書の故をもつて、一名別名として、ある書の項目の中に幷せ記したものもある。ゆゑに、ある書名が本書目要覽の本項目の中に見えなくても、その解題を讀まれたなら、その中に見出す事が出來るであらう。これらは索引によつて檢出して頂きたい。

一、本文には一々記さなかつたが、本書を編する爲めに參考とした書は次の如きものである。單行本としては、

書籍目錄　寬文版、元祿版以下數種
國書朝目　寬政三年刊
群書一覽　享和二年刊

近代名家著述目錄　堤朝風　文化八年刊
慶長以來諸家著述目錄(和學者の部)中根賴治　明治二十七年刊
增訂國書解題　佐村八郎　明治三十七年刊
國學者傳記集成　大川茂雄、南茂樹　明治三十七年刊
國文學書史　永井一孝　明治四十四年成
日本文學者年表續篇　森治藏、今關國貞　大正九年
往來物分類目錄　岡村金太郎　大正十一年刊
國文學研究史　野村八良　大正十五年刊
日本文學者年表(增訂改版)　赤堀又次郎　大正十五年刊
新修日本小說年表　朝倉無聲　大正十五年刊
大日本歌書綜覽　福井久藏　昭和三年刊

右は何れも、その一部に、源氏物語研究書の書目、或は書目解題を收めてゐるものである。此の他にも、源氏物語研究書の書目を掲げた書はあるが、大抵上記の書によつた、餘り信用の出來ないものであるから、書目の書としては、先づ權威のある上記の書を參考として、研究書目を編む基礎とした。併し解題を物する爲めには、上記の書よりも、次に記す如き、雜誌、講義錄などに載つた、源氏物語研究書に關する研究論文に、多大の利益を得たのである。

源氏に於ける古代の註釋及び研究　松井簡治　(國語と國文學第十八號)
源氏物語研究の初期　山岸德平　(同)
源氏物語の書誌　植松安　(同)
源氏物語古鈔の一考察　宮田和一郎　(國語國文の研究第二十六號—第三十號)
水源抄紫明抄の撰者　山脇毅　(藝文第十二卷第一號)
河海抄の系統に就て　同　(藝文第十三卷第七號)
源氏物語聞書と弄花抄　同　(藝文第十五卷第一號—第二號)
源氏物語弄花抄と細流抄　同　(藝文第十五卷第四號)
仙源抄の二諦本　同　(藝文第十九卷第九號—第十二號)
源氏物語研究史の新資料　橋本進吉　(國語と國文學第十八號)

源氏物語千鳥抄について　同
源氏卷歌　高野辰之　（國語と國文學第三十五號）
古寫本源氏物語系圖に就て　三條西公正　（國語と國文學第七十七號）
源氏一品經と源氏表白　後藤　丹治　（國語國文の研究第四十八號）
源氏物語研究　山岸　德平　（日本文學講座）

なほ、山脇毅氏の他の論文數篇にも恩惠を受けた。此の他、多少とも參考に資した書名を若干揭げると、福井久藏氏「日本文法史」同氏「連歌の史的研究」太田爲三郎氏「日本隨筆索引」保科孝一氏「國語學小史」佐佐木信綱先生「日本歌學史」浪速高等學校編「國語國文研究雜誌索引」金子元臣、花岡安見氏共著「古今歌文書綱要」等がある。且つ、個人的に敎示を與へられ、或ひは所藏の御本を見せて頂いた佐佐木先生をはじめ、上田英夫先生、山脇毅氏、山岸德平氏、池田龜鑑氏、倉野憲司氏、西下經一氏の御好意も忘れがたい。一言記して深く感謝の意を表する次第である。以上記した他は、大抵、本文の中に引據が記してある。

一、學生時代のノートに、澤瀉先生の源氏物語の各卷別の系圖がある。これは人物關係のみならず、人物の年齡の相違も分る、先生獨創のもので、私は深く御恩惠を受けた。又、久松先生の源氏物語の解題がある。研究書類の解說についても懇切に說き示されて、大變有益なものである。かうした種類のものをも、寫本として此の書目の中に取り扱ふ事にすると、更に卒業論文の類をも入れなければならぬと思ふ。古人なるが故に貴く、無名なるが故に價値なしなどと云ふ事はなく、事實は、寧ろそれと反對の現象を呈してゐるのである。私としては、切に、さうした種類の論文をも、寫本として、研究書目の中に入れたいと望んでゐる。併し、これを一々調査する事は、今までは出來なかつたのである。なぜなら、さうした論文は大抵著者自身の手元にあつて、これを見るすべはないからである。併し、折角の苦心の作がかうして埋もれてしまふといふのは全く惜しい事である。我々はその記錄、解說をも採集して置かなければならぬと考へてゐる。

一、附錄に年表系統表と索引とを付した。その凡例は、それ〴〵の箇所に記しておいた。索引の中には年表の頁數をも含めなければならぬ事に氣が付いたけれども、既に索引が組み上つてゐて、どうともする事が出來なかつた。これらは隨分不完全なものではあるが、一面、本

源氏物語研究書目要覽

書に於ては、重要な役割をつとめるものである。これらの運用が、本書を活かしてくれると思ふ。

一、口繪の寫眞版は、註釋書や索引の類以下、研究書の各方面を代表する種々なる性質のものを撰んでのせた。且つ、自筆稿本、版下本の類を主とし、版本は極めて希覯なるものを撰んで揭げた。これらの寫眞については、佐佐木先生、澤瀉先生、大島雅太郎氏、岩淵兵七郎氏、酒井秀夫氏の御恩惠を得た事を深謝する。

一、未見の書も多く、且つ、今まで學界に全然知らない希覯書を所持して居られる方も多い事であらう。本書目の中には、さうした個人所藏の書にふれる事が極めて少かつた。私はそれらの書を、發表紹介して頂いて、此の書を補つて下さる人の多い事を甚だ願つてゐる。かうした事業は一個人では到底不可能な事であり、且つ、折角の書籍を死藏するのもどうかと思ふ。又、本書の誤謬の箇所や、異名同書を思ひ違へたりしてゐたやうな箇所があるならば御敎示を願ひたいものである。その御厚恩を謝して、是正するに吝かでない。

一、全巻註釋

源氏物語釋　一巻　藤原伊行（寫本）

俗に奥入とも云ふは誤。一名伊行釋。源氏釋と題し明石までの寫本あり。原文を詳しく長く引用したる所が定家の奥入と異なる。また定家の奥入よりは條項少し。（圖、前田家）

源氏物語奥入　一巻　藤原定家（群書類從）

二冊本もあり。俗に追註加と云ひ、また定家卿釋、難儀抄とも云はる。源氏秘傳抄と題せる寫本もあり。伊行釋に定家が補說したるもの。源語古鈔と題せる條項の多き寫本もあり。源氏物

語の寫本の奥に書入をしたるを、後にまとめて一巻としたる書ゆゑ、奥入と名付く。以上の兩書は故事出典をあげ、殊に多く引歌を載せたるもの。（阿、神）

水原抄　五十四卷　源光行、親行等　（傳本不明）

原中最秘抄その他諸抄に引用せらる。

原中最秘抄　二卷　源親行　（群書類從）

親行の原著を、その孫行阿に至るまで代々增補したるもの。群書類從本は、それを藤原長親（耕雲山人）の抄錄したるもの。源氏物語最秘抄とも云ひ、河海抄には行阿釋と記す。（前田家）

紫明抄　三十六卷　釋素寂　（寫本）

五冊、十冊、十二冊本等あり。著者紫雲寺素寂は親行の弟。一名水原紫明抄。河海抄には素寂釋とも云ふ。原題名は光源氏物語抄。永仁二年以前（正應年間か）成。鎌倉將軍久明親王に献じたるもの。原文を長く引く。敦隆、伊行釋、定家、奥入、素寂、今案などと註解の下に引據を記す。紫明抄を增補したる今川範政傳寫本の如きものもあり。（圖、帝、京、神）

紫明拾遺抄　一卷　（傳本不明）

國朝書目及び阿波國文庫の目錄に見ゆ。

河海抄　二十卷　四辻善成　（國文註釋全書）

十冊本。一名一葉抄。康曆元年以前成。始に總論を附し、物語撰述の由來、作者の傳等を加ふ。從來の註解に比して、その態度甚だ詳密となり、劃期的の著述なり。（京、帝、圖、神、彰、國）

河海抄類字　一卷　小山田與清　（寫本）

河海抄の索引。（帝）

全卷註釋

源氏物語千鳥抄　一卷　平井相助（續群書類從）

二冊本。連歌師相助が至德三年乃至嘉慶二年の四辻善成の講說を聞書したるもの。その後また質問をなし、これを二帖に認む。後三十餘年を經て應永二十六年（著者九十一歲）に筆寫して大內義弘の子持世に奏る。一名至德記（三十卷と云ふは誤）、源氏御談義（源氏談義）、源氏講釋聞書、相助聞書。原名はただ千鳥と題す。また源註と題したる古寫本もあり、千鳥抄の他に種々の附錄を加ふ。猪苗代兼載及び龍翔院（三條公敦）の奥書あり。續群書類從本の奥に源氏物語の發端に就いて記したる文章を附したるは、源氏大鏡の發端の文章と同じ。著者は心敬の「ひとり言」に「平井入道」と言へる人なるべし。（圖、東、京、阿、倉野憲司氏）

源氏六帖抄　六卷　椙月德翁（寫本）

一冊本。宇治十帖の語釋に本卷の抄釋、その他の雜說を附す。原題は源氏之雜說抄物（源氏雜抄物）。應永十五年（著者八十三歲）以前成、此の年に增補す。（圖）

一滴集　二卷　釋正徹（寫本）

原本三冊、又五冊本もありと云ふ。永享十二年成。一名一滴抄、源氏物語抄。もと源氏物語の書入本を後に抄出したるもの。河海抄の說により私意を加へて註す。

花鳥餘情　三十卷　一條兼良（國文註釋全書）

河海抄を增補訂正する目的をもつて著作せらる。文明四年成。これに筑紫の大內左京亮所望の本と、美濃持足院に藏する爲進本の兩異本ありて、內容に相異ありと云ふ。前者は文明八年に著者が大內左京大夫政弘に書き與へしもの。それを更に龍翔院入道が文明十二年に書寫す。また宗祇の明應九年抄出本、河海花鳥抄出（四帖）の如き寫本もあり。（帝、圖、京、神、彰、阿）

源氏和秘抄　一卷　一條兼良（續群書類從）

初學者の爲めに簡單なる註を施す。寶德元年成。（京、圖、彰）

源氏物語註　一卷　（寫本）

全卷の極めて簡畧なる註釋、出典の如きもののみを記す。註を畧したる卷もあり。傳一條冬良筆。

三賢一覽　十卷　富小路俊通　（寫本）

九冊本。一名三源一覽。紫明抄、河海抄、花鳥餘情の三書の說を幷せ引きて、私說をも加へたるもの。（神）

弄花抄　七卷　牡丹花肖柏、逍遙院實隆　（寫本）

十冊本、十三冊本等あり。肖柏の宗祇よりの聞書に實隆の增補したるもの。文明八年成。文明九年再訂。長享三年三訂。此の時宗祇の說や兼良よりの聞書等入る。永正七年肖柏の稿本を借りて實隆增訂す。一名源氏物語聞書。また源氏聞書逍遙院御抄等と題す。永正七年に肖柏の增補を加へたる本、永正十六年實隆の書き與へし本等あり。（東、京、圖、神）

源氏物語聞書　一卷　逍遙院實隆　（寫本）

文明十八年成。永正二年、同六年再訂。同七年乃至十年三訂。各卷の短註にて一冊にまとまる。弄花抄より小なり。中に、永正七年近衞殿に於て此の書を讀了の時改めたるよしの覺書の書入ある所あり。（國）

一葉抄　十五卷　牡丹花肖柏　（寫本）

十冊本。明應四年成。宗祇の說による。弄花、一滴、和等を引く。（帝、京、神）

細流抄　二十卷　稱名院公條　（寫本）

十冊本。永正十年實隆の講說の聞書。大永八年成。此の本燒失して天文三年再び成。一名源氏物語聞書。秘抄と題したる十一冊本、源氏物語抄と題したる四冊本等あり。河海、花鳥餘情の說を撮要したるものに私說を加ふ。（京、圖、帝）

箋　三光院實澄（傳本不明）

岷江入楚に引用せらる。

明星抄　五十五卷　三光院實澄（國文註釋全書）

廿冊本、十六冊本。また細流抄と題せる十冊本、十三冊本などもあり。細流抄に發端一卷を加へたるもの。細流抄と大方同じく、小補あるのみ。國文註釋全書本に細流抄と題せるは實は明星抄なり。明曆三年刊。（國、京）

覺勝院抄　二十五卷　覺勝院（寫本）

覺性院抄とも記す。また「覺――」とのみ題せる寫本もあり。原題は源氏物語聞書。逍遙院實隆の講說の聞書と云へど疑はし。三光院實澄の講說を覺勝院の聞書したるものか。或は覺勝院の講說を弟子の聞書したるものか。元龜二年成と思はる。源氏物語の本文を全部載せたり。弄花、河海、花鳥餘情、聞書（稱名院說）等を引く。初に、女官の次第、總論等をも加ふ。此の總論は弄花の序を取りたるものにして、逍遙院作と書入あり。これによりて、本書も實隆作と誤らる。此の書入本には、三亞說（實澄）、龍云などと記せる說をかゝぐ。（國、東、大島雅太郎氏）

聳源抄　五卷　岡田宗賢（寫本）

河海、弄花、一禪說（兼良）等を引く。各卷順に本文をあげて註解す。初に物語の由來作者等に就いて記せる總論あり。辨疑書目錄に「源氏物語聳源鈔二十冊岡田宗賢作」と見ゆ。（北）

孟津抄　五十四卷　九條植通（寫本）

廿一冊本。稱名院公條の講說の聞書に、河海、花鳥餘情の說を取り用ゐ、弄花の說をも加ふ。天正三年成。一名源氏物語抄、孟津集。孟津集執要（一冊）と題せる寬延四年の抄出本もあり。（神、京）

休聞抄　二十卷　里村昌休（寫本）

十五冊本。一名源氏物語聞書。弄花等の說を引く他　宗祇以來宗牧までの說を收む。天文十九年成。（京）

萬水一露　二十八卷　能登永閑（寬文三年刊）

六十二冊本。河海、花鳥餘情、弄花、細流等の諸說を集大成す。またその兄にして師なる宗碩の說も入る。天正三年成。刊本には承應元年の松永貞德の跋文を加ふ。一名源氏物語聞書。また萬水一露抄と云ふ抄出本もあり。（帝、京、圖）

源氏聞書　三卷　新納忠元（寫本）

永祿四年乃至十年成。（三矢重松博士稿）

紹巴抄　二十卷　里村紹巴（刊本）

九冊本もあり。花鳥餘情、弄花を引く事多し。稱名院公條の講說の聞書なり。一名源氏物語二十卷抄、水源抄（水源紫明抄と題せるは、これより誤れるもの）。天正八年成。刊本には源氏物語抄と題す。（內、京、圖、阿、神）

源氏物語抄　三冊　里村玄仍（寫本）

自筆稿本。紹巴の子玄仍の著。初に總論あり。紹巴抄による所多かるべし。文祿三年成。（倉野憲司氏）

薄紫　二十卷　柴屋軒宗長（傳本不明）

宗碩抄　六卷　月村齋宗碩（傳本不明）

全卷註釋

源氏物語抄　五巻　猪苗代兼載　（傳本不明）

○ **林逸抄**　五十四巻　林宗二　（寫本）

廿五冊本。牡丹花肖柏の聞書。河海、花鳥餘情、弄花、一葉、休聞等を多く引く。（內）

花屋抄　四巻　（寫本）

三賢一覽の事見ゆ。それ以後のもの。各巻毎に解說ありて、語句を註す。（內、京、影）

源氏取要抄　七巻　（寫本）

五十四帖の全部より要所を抜き出だして短註を加へたるもの。仙源抄等と同文の箇所あり。河海等の諸抄を多く引く。揭出の原文は長文のもの多し。（第五高等學校）

蜀山抄　一巻　（寫本）

古註の零本。天保六年の田中大秀の書寫書入本あり。（飛驒高山荏野文庫）

源氏物語四孝註　二巻　（寫本）

各巻の語句にて漢詩漢文佛書等に關係あるものを抜き、巻別にその語句をあげて出典の原據を漢文にて示し、註解を加ふ。全巻に及ぶ。儒教的見地、或は佛教的見地より批評を加ふ。（池田龜鑑氏）

水原錄　二巻　（寫本）

零本、河、花、抄等を引く。朱青黑にて粗き註を加ふ。本文を全部あげて頭註傍註を加ふ。湖月抄による所ありと見ゆ。各巻の初にその巻の解說あり。（池田龜鑑氏）

源氏物語抄　八卷　（寫本）

本文を長く引きて所々に私案を加へたるもの。旅行に出づるにあたり全部五十四帖を携ふるは煩しければ、所々の肝要を拔きて旅路の友とするよしの奥書あり。（三矢重松博士稿）

尋流抄　一卷　（寫本）

花宴、葵、榊、花散里、須磨、明石の註。本文には尋流抄卷十一とあり。（東、三矢重松博士稿）

源氏物語語釋　三十三卷　（寫本）

各卷別に語句をあげて短註を施す。諸抄の名をあげず。（國）

源氏物語註　五十卷（六十卷）　細川幽齋　（傳本不明）

岷江入楚　五十五卷　中院通勝　（國文註釋全書、國文學註釋叢書）

一名濫觴無底抄（五十六冊本）。河海、花鳥餘情、弄花、細流、明星等を引き、また箋（實澄說）、秘抄又は四抄（細流抄の事）等をも引く。古註を集大成したるもの。細川幽齋の跋文あり。自筆稿本四冊存す。源氏註抄、或ひは源氏物語詮抄と題したる廿冊本あり。慶長三年成。註釋書として最も膨大なる著にして、かつ最も宣し。劃期的の名著たり。源氏物語抄　箋（一冊）と題したる慶長十四年の抄出本あり。岷江入楚鈔と云ふ元祿十五年の抄出本もあり。又、岷江入楚別記一卷ありと云へり（國朝書目）。（神、京、彰）

源氏物語辨　百二十四卷　中院通勝、細川幽齋　（傳本不明）

岷江入楚を更に增大したるものと云ふ。岷江入楚は本書を著す爲めの前著に過ぎず、しかも前書のみ世に行はれて本書は世に隱れたりと云ふ。（群書備考所引東海談說）

源氏物語抄　二十一卷　（寫本）

祇云（宗祇）などと記す。稱名院公條の說を引き、明星抄の書添などあり。永祿八年、慶長六年、同八年の奥書あり。（三矢重松博士稿）

源氏物語聞書　二卷　松永貞德　（寫本）

初に總論あり。語句に短註を施す。貞德の著か否かを論ぜし木下順庵の書簡を附す。（前田家）

源三知抄　二卷　寺町三知　（寫本）

源氏三知抄とも云ふ。各卷別に、卷中の重なる事項を列記して一種の梗概をなし、次にその卷中の語句文章を揭げて註解を施したるもの。可成り詳しき註釋なり。寺町三知は貞享頃の幕府の茶坊主。（帝、三矢重松博士稿）

源義辨引抄　二十卷　一華堂切臨　（萬治年間刊）

稱名院公條、三光院實枝（實澄）より切臨の師一花堂乘阿に傳りたる聞書。慶安三年成。（帝、彰）

源氏物語　六十卷　山本春正　（慶安三年刊、承應三年刊）

繪入本。簡單なる傍註を附せるも、殆ど素本に等し。小鑑三卷、系圖一卷、山路の露一卷、引歌一卷を附す。

源氏物語聞書　五十四卷　中院通村、通純等　（寫本）

原題名なし。寬永四年より慶安四年に至る講義を通村、通純等の筆記したるもの。原稿本。冊數不詳。國學院大學所藏源氏打聽と題したる本も亦その一部なり。（京）

源氏物語講釋　五十五卷　中院通茂　（寫本）

源氏物語註釋、源氏聞書等とも題す。岷江入楚を要約して、更に條項を加へたるもの。花散里まで八冊自筆稿本存す。（京）

源氏聞書　五卷　後水尾院　（寫本）

桐壺より玉鬘卷までの御講義を、後西院の筆記し給ひしもの。（列聖全集解題）

源氏聞書　一卷　後水尾院　（寫本）

寛文六年の御講義の筆記。（列聖全集解題）

なほ此の類の堂上方の聞書には、源氏物語聞書、源氏講釋聞書、源氏物語抄、源氏御抄、源氏解釋、源氏物語解などと題せる大同小異の雜種の本あり。（國、京）

首書源氏物語　五十六卷　釋子眞　（延寶元年刊、寶永三年刊）

原文を全部揭げて、古註を拔萃し頭書としたるもの。萬水一露を專ら用う。附錄に年立系圖を附す。（京、神、尾上八郎博士）

源氏物語湖月抄　六十卷　北村季吟　（延寶三年刊）

原文を全部揭げて、古註を集め頭註傍註を附し、自說をも加ふ。師の箕形如庵の說も入る。年立系圖を附す。發端に總論あり。源氏物語表白をも添ふ。國文全書本は小田清雄が、大阪積善館本は猪熊夏樹が、玉の小櫛、玉の小櫛補遺、評釋等によりて增註す。後者は增註源氏物語湖月抄と題して有川武彥再訂本（三冊）出づ。吉澤義則博士校訂本には索引一冊を附す。古來最も行はる。劃期的の書。

源氏雨夜抄　五十八卷　石出常軒　（寫本）

一名溫故知新抄。六十餘冊本もありと云ふ。延寶天和頃成。廿六種の註釋書を一段毎に引き、師說私說を加へたるもの。窺源抄も同書。窺源抄と題せる寫本は十三冊本にて、須磨まで、延寶七八年成。即ち、源氏雨夜抄の初の方をかく題せるものなり。（內）

源氏外傳　五卷　熊澤蕃山　（國文註釋全書、國文學註釋叢書）

三冊本、四冊本、五冊本。一名源氏物語抄、源語評。蕃山の著を中院通茂が抄出し潤色したるもの。儒學的見地より解釋を施し且つ批評を加へたり。蜀山人編三十幅にも入る。（內、京、阿）

源註拾遺　八卷　契沖　（國文註釋全書、契沖全集）

湖月抄を主として、古註の誤謬を訂し自說を記したるもの。新註の最初に出でて、古註の傳統主義を破したる劃期的の著述たり。元祿九年成。（自筆稿本佐々木信綱博士）

源氏そこのしとき　一卷　大橋長廣　（寫本）

各卷毎に語句を抜き短註を加ふ。湖月抄の讀後、その註解を抄出せしもの。全卷に及ぶ。正德五年成。（池田龜鑑氏）

源氏一簣抄　七十三卷　堀河悠見子　（寫本）

首卷一冊を加へて七十四冊とす。正德二年乃至正德六年成。諸抄を引き、一段下げて自說を述ぶ。後水尾院、後西院の御講說をも加ふ。（圖）

源氏物語新釋　五十四卷　賀茂眞淵　（加茂眞淵全集）

廿二冊本、廿五冊本、卅二冊本、五十三冊本、五十六冊本等あり。湖月抄を基として、河海抄その他の說を取捨し、契沖、春滿の說をも加ふと云ふ。また自說をも折々加へたり。第一卷の始に總考あり。これのみ一卷として文化十三年に刊行す。別記一卷あり。全集本には、門弟が眞淵の講說を書き加へたるものをも取り入れたり。寶曆八年成。（帝、京、內、圖）

源語集註　十五巻　谷川士清（寫本）

源註拾遺、新釋、玉の小櫛の三書を各巻に分ちて記せるもの。尾崎雅嘉の舊藏。（東、三矢重松博士稿）

源氏導朦抄　三十二巻　源嶋萬呂（寫本）

八冊本。契沖説最も多く、稀に古註、師説（眞淵説）を引く。寛政四年（著者六十四歳）成。（文）

源氏物語玉の小櫛　九巻　本居宣長（本居宣長全集）

主として湖月抄の誤を訂す。年紀考、紫文要領等を始に加へ、また湖月抄本の本文と異本との校異をも加ふ。寛政五年起稿、同八年成。同十一年刻成、刊行す。（帝、内、神）

源氏鈴の色音　七巻　本居宣長（寫本）

玉の小櫛九巻の中、第三巻、第四巻の兩巻を除きて七巻としたるもの。（帝）

玉の小櫛補遺　二巻　鈴木朗（文政三年刊）

文化十三年成。森嘉基の序文あり。（帝、京、内、彰）

源語參註　十三巻　尾崎稚嘉（寫本）

自筆稿本。眞淵の新釋を主として種々源氏の註釋を寄せたるもの。（上方第十四號鹿田文一郎氏稿）

源氏物語玉椿　五巻　細井貞雄（寫本）

自筆稿本。首巻は總論に揚名考を附して一冊とす。註は自説のみを述ぶ。花宴まで。初稿本一

冊、成稿本三冊、首卷共に五冊とす。文化十年起稿、三年を經て成る。（無）

源註餘滴　二十卷　石川雅望（國書刊行會刊）

別に拾遺五卷あり。湖月抄の補遺にして、甚だ良書なり。契沖說、眞淵說を引く事多し。岡書刊行會本は索引を附す。

三界唯心　九卷　放鶴道人貞甫（寫本）

十六冊本。湖月抄、萬水一露、和秘抄、細流抄、花鳥餘情、宗碩云、牡丹花肖柏云等として、諸說を引き、貞甫云、放鶴云、雲間道人云とて自說を述ぶ。閑註云とて引ける所も多し。奏の卷にて中絕す。全部百卷と序文に記せども完成せざりしなるべし。奏の卷を第九卷とす。天保二年（著者六十八歲）七月乃至九月成。自說は佛說に付會したる所ありて、取るべき說少し。（彰）

源氏物語評釋　十三卷　萩原廣道（國文註釋全書）

花の宴まで。語釋の他、俗語を添註し評を加へ、文脈を圖示す。別に語釋二卷、餘釋一卷あり。諸說をよく咀嚼して、自說は中正妥當、諸註釋書の中、最良の書と云はるる名著たり。嘉永七年成、同年刊。餘釋のみは文久元年刊。

源氏物語俚諺解　四卷　佐佐木弘綱（寫本）

夕顏まで。原文の傍に俗語をもつて譯す。安政三年乃至四年成。若紫も半ば稿本あり。源氏物語俗言附、源氏物語童喩等とも題す。（佐佐木信綱博士）

源氏物語考　二十七卷　岡本保孝（寫本）

況齋叢書第七十二冊より第七十九冊まで八冊本。篝火までの註。玉の小櫛の說を多く引く。（帝）

全卷註釋

源氏列傳衣配（キヌクバリ） 一卷 （寫本）

慶應四年の奥書あり。若紫より若菜上に至る註釋。なほこれと同様の紙筆にて桐壺帚木の書入註釋書一册あり。源忠韶の奥書あり。（三矢重松博士稿）

王鬘井卷末絹配（キヌクバリ） 二卷 （寫本）

これは本文を長くあげて講註を加へたり。（三矢重松博士稿）

註釋源氏 八卷 三矢重松 （寫本）

自筆稿本。各卷の初に解說あり、墨朱にて頭註傍註を加ふ。花散里まで。墨註古く朱註は後に加へたりと見ゆ。傍註は全部朱にて甚だ精細なり。（國）

源氏物語講義 十一册 鈴木弘恭 明治十七年刊）

黒川眞頼校閲。著者の講義の筆記。頭註傍註あり。榊まで。原文を大段小段等に段落を分つ。首卷一册。三十數卷に分つ。

源氏物語詳解 五册 池邊義象、鎌田正憲 （大正五年刊）

花の宴まで。諸註を網羅して詳細なる註解を加ふ。梗概批評をも附す。明治以後出でたる註釋書の中、最良の書。

源氏物語活釋 二册 小林榮子 （大正十三年刊）

原文に出來るだけ漢字を宛てて書き、振假名の原文と、これに宛てたるその意を現す妥當の漢字とを比べ讀む事によりて原文の意を諒解せしめんとしたるもの。

定本源氏物語新解 三册 金子元臣 （大正十四年—昭和五年刊）

原文は青表紙本に河内本を校合して文章を訂正し、頭註を加へたるもの。但し、河内本そのま

きの翻刻にはあらず、著者が一異本を作りたるものなり。良書として、何人も參考すべき著述たる事は言を俟たず。附錄に山路の露、年譜、系圖を附す。

校註源氏物語　一冊　梅澤和軒（昭和二年刊）

關屋まで。

源氏物語新釋　一冊　瀧澤良芳（昭和二年刊）

文檢受驗用。明石まで。以下は梗概。

源氏物語諸抄大成　二冊　永井一孝（昭和二年、昭和五年刊）

湖月抄を主として、これに諸註を增補したるもの。

新編源氏物語詳解　一冊　二之宮英雄（昭和三年刊）

長連恒監修。空蟬卷まで。

集註源氏物語新考　一冊　永井一孝（昭和四年刊）

源氏物語諸抄大成と同樣の書。末摘花まで。

源氏物語講義　一冊　高橋刀川（昭和四年刊）

觀字帖と題す。頭註に語釋、本文の次に口語譯あり。節段の分け方を嚴にし、初學者に分るやう懇切に譯解す。花散里まで。

新講源氏物語　十二冊　石田元季、小室由三、岡田稔、石井直三郎、山崎敏夫等（昭和六年刊——）

桐壺より浮舟までの間の十二卷を撰び、原文、語釋、口譯、評を付したるもの。六人にて十二卷を分擔し、各卷一冊宛とす。

源氏物語（頭註）　五冊（日本文學全書本）
源氏物語（頭註）　二冊（國文叢書本）
源氏物語（頭註）　三冊（日本文學叢書本）
源氏物語（頭註）　四冊（有朋堂文庫本）
源氏物語（頭註）　三冊（博文館叢書本）
源氏物語（頭註）　二冊（日本文學大系本）

源氏物語講義　小杉椙邨（國文學研究會講義錄）
源氏物語講義　飯田武卿（國語講義錄）
源氏物語選釋　長連恒（早大講義錄）
源氏物語選釋　永井一孝（早大講義錄）
源氏物語講義　岩城準太郎（國文學講座）
源氏物語詞章研究　宮田和一郎、島田退藏（國語國文の研究）

全卷註釋

二、一部註釋

雨夜談抄　一卷　宗祇　（續群書類從）

一名帚木別註。帚木の卷の雨夜の品定のみ。文明十七年成。（圖、神、帝、京、阿）

桐壺考　一卷　賀茂眞淵　（寫本）

新釋よりも詳細なり。桐壺のみ再考を加へたるものなるべし。（池田龜鑑氏）

源氏物語說　一卷　石野廣道　（寫本）

文政六年書寫の奥書あり。桐壺の卷のみ。源氏演說抄と關係あるか。（三矢重松博士稿）

源氏物語解帚木卷　一卷　萩原宗固　（寫本）

一書に、二卷とあるによれば、桐壺と帚木との註譯書か。（三矢重松博士稿）

雨夜物語だみ詞　二卷　加藤宇萬伎　（安永六年刊）

頭註傍註あり、本文の間に添註ありて明解ならしむ。上田秋成の序文あり。明和六年成。（帝、京、神、彰）

源氏物語先入御抄　一卷　（寫本）

桐壺卷のみ。明和頃成。資矩の序文によれば高貴の方の著述の如し。原稿本は天明の火災に燒失せりと云ふ。單に先入抄とも云ふ。（帝）

少女卷抄註 一卷 鈴木朗 （文政十年刊）

千村仲雄序、本居大平、中山美石跋。文政七年成。（帝）

宵のともしび 一卷 藤原則之 （寫本）

自筆稿本。帚木雨夜の品定の條のみ。本文は原文を墨にて記し、平易に譯語を加へたる所は朱にて記し、頭註傍註を加へたるもの。橘守部の土佐日記舟の直路などに似たる趣向なり。初に三界唯心序及び宵のともし火ことばの糸口の二序を載す。三界唯心序によれば本書の著者幾月亭藤原則之は三界唯心の著者放鶴道人貞甫と同人らしく、天保二年十月に三界唯心序を記し終りたる後本書を著したるが如し。（國）

湖月抄別記 二卷 橘守部 （橘守部全集）

桐壺帚木の卷のみ。天保五年成。（自筆稿本橋純一氏）

品定參註 一卷 清水宣昭 （寫本）

雨夜の品定の條のみ。天保十年成。（帝）

紫語素註 一卷 村上影面 （寫本）

桐壺卷のみ。始に總論あり。（帝）

源氏帚木卷の註 一卷 （寫本）

原題名不詳。本文を出來得る限り漢字に書きかへ、振假名にて原文を示したるもの。簡單なる頭註あり。（京）

源語會讀抄 一卷 石橋眞國 （寫本）

桐壺卷のみ。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

源氏物語藤裏葉解　一卷　（寫本、未見）（京）

源氏松風の註　一卷　（寫本、未見）（京）

桐壺記　一卷　（寫本、未見）（京）

品定私鈔　一卷　（傳本不明）

若紫抄　一卷　（傳本不明）

源氏桐壺大概　天野信景　（傳本不明）

源氏帚卷　荒木田久守　（傳本不明）

源氏空蟬卷　千葉葛野　（傳本不明）

源氏物語新講　一冊　小倉博　（昭和二年刊）

須磨卷のみ。口語譯を附す。

宇治十帖新釋　一冊　石川誠　（昭和二年刊）

對譯源氏物語講話　一冊　島津久基　（昭和五年刊）

桐壺と帚木の雨夜の品定まで。原文と口語譯を對照し、脚註あり。語義の欄に語釋を考證的に記し、參考の欄に參考書等を記し、釋評の欄に著者の私見を述べ、物語全體の構想等に及び、

源氏物語研究書目要覽

あらゆる源氏學の問題を取り扱ふ。附錄に序說（總論）あり。索引を附す。

三、難義摘註

弘安源氏論義　二卷　（群書類從）

弘安三年に物語中の難義を二條づゝ問はしめ、左右八人の者に（合計十六條）論義せしめしもの。判者は源具顯。古今集序をまねたる跋文あり。此の部分は八洲文藻に入る。寛文元年版、寛文八年版等あり。

源氏三箇大事　一卷　（寫本）

三光院實澄や紹巴傳來の本あり。三箇大事とは、揚名介（夕顏）、ねの子の三つが一つ（葵）、殿

居物の袋(榊)、此の三條の解釋を云ふ。(神、京、國)

源氏十五箇奥義　一卷　(刊本)

三箇大事に十二箇條を增加して、それに解釋を附し秘事口傳としたるもの。一條兼良の源氏口傳を改訂補筆して出版したるものなるべし。

源語秘訣　一卷　一條兼良　(群書類從)

十五箇條に追加一條(但し古寫本には此の一條なし)、合計十六箇條。もと十五箇條のみにて、後一條を加へたるものか。口傳抄を增訂したるものと見ゆ。一に源氏十七箇條秘事と稱すれど、今一箇條は不明なり。一名源氏物語秘事(秘抄)、一條禪閤口傳、源氏物語之內十五ケ條目錄事、源氏十七ケ條秘訣、源語秘訣抄。文明九年成。源氏不審抄と題したる延德二年の寫本には、光源氏物語秘曲一帖とも記して、終に、稱名院公條の口訣を附す。兼良の息多良の花鳥餘情別勘と題したる寫本もあり。刊本には刊年不詳中村孫兵衛版、延寶八年版等あり。刊本は類從本と全く同じ。(國、北、神、京、國)

源語秘訣　一卷　一條兼良　(寫本)

右書とは全く別種の本、和歌秘傳抄(飯田季治氏編)に收む。

源氏口傳　一卷　一條兼良　(寫本)

三箇大事に十條を加へ、十三箇條の奥義を釋す。源語秘訣よりも簡明なり。文章は同じき所多し。文明三年成。文明十二年に將軍足利義尙に書寫して獻上す。一名源氏物語秘訣、源氏物語花鳥口傳抄、口傳抄。(阿、神)

口傳抄　一卷　一條兼良　(寫本)

十三箇條の奥義を簡明に記す。前書よりも一層簡明なり。文明十二年の奥書ある寫本には可睡齋の奥書あり。一名源氏可睡齋秘書。此の本にはまた、前の源氏口傳、此の口傳抄、及び伊勢

物語、大和物語、徒然草、東鑑の三箇大事、秘事を集めて、全部五卷を一冊となし、一禪附錄、一條禪閤兼良公御秘作附錄　下なども題す。（彰）

源氏物語不審條々　一卷　一條兼良　（寫本）

釋正徹の問ひし不審の條々に一條兼良が註を加へたるもの。花鳥餘情に註ある旨多く見ゆ。源氏物語之內不審條々とも云ふ。（圖）

源氏物語不審條々　一卷　一條兼良　（寫本）

宗祇が文明九年に尋ねて得たる註を寫し、また牡丹花肖柏が尋ねたる不審の條々に兼良の答へたるもの。文明十二年に註す。前書と全く異なる。一名肖柏問答抄、牡丹花老人聞書。以上兩書とも物語の各卷別に註す。（圖、阿）

種玉編次鈔　一卷　宗祇　（寫本）

薫中將より椎が本まで五卷、及び早蕨宿木の順序錯亂ある旨を、證文を引きて註解を加へ、年次官序を示して論じたるもの。文明七年成。文明十三年、逍遙院實隆の奥書あり。一名源氏物語種玉庵抄。源氏雜亂抄と題せる寫本には永祿二年の奥書あり。（圖、彰、北）

不審抄出　一卷　宗祇　（寫本）

河海、花鳥餘情に註せる以外の不審の條につき、一條兼良へ尋ねたる問答の書。前記源氏物語不審條々と同性質の書なれば、兼良の著とする方然るべし。（源義辨引抄、群書一覽）

源氏物語不審抄　一卷　宗祇　（寫本）

各卷より一二ヶ所づゝ不審の文章を數行抽出して、これに註を加ふ。富小路俊通の奥書ある寫本あり。殆ど全五十四帖に及ぶ。（北）

源氏物語切紙　一卷　（寫本）

天正二年の三光院實澄の源氏物語三箇大事切紙、又一通之切紙、源氏物語秘訣三箇大事抜書、狹衣三箇秘訣切紙（これは奥書に「從九條禪閤貞德翁所令傳授也」とあり）等を合冊したるもの。（國）

源氏物語他四種秘傳　一卷　長谷川春雅　（寫本）

源氏三箇條之傳、同外の大事、狹衣の秘訣、つれ〴〵草三ケ條の傳、百人一首五歌の秘決、八雲神詠五妙傳等を集む。長谷川春雅が安永四年に尾崎八雅に書き與へしもの。師傳の通りに寫し傳ふといふ。（國）

伏屋塵　一卷　後水尾院　（續群書類從）

三箇大事に五箇條を增し、八箇條に奥義を註す。延享元年寫の奥書ある本あり　列聖全集にも入る。（帝）

源氏物語不審書　一卷　藤井高尙　（寫本）

藤井高尙の問ひし不審の條々に本居宣長の答へしもの。（熊本某氏）

清石問答　一卷　清水濱臣　（國書刊行會刊）

清水濱臣と石川雅望の問答の書。やまと叢誌にも入り、刊本源註餘滴の附錄に載す。文化二年成。

源氏三秘事之辨詞　一卷　賀茂眞淵　（寫本、未見）（熊本某氏）

源氏三箇秘事辨考　一卷　橘守部　（寫本、未見）（橘純一氏）

源語秘訣校正　近松茂岳　（群書備考所引古傳圖鑑跋文）

揚名問答　一卷　（寫本）

揚名介事とも題す。前半は證文を列記す。後半は一條前關白、右大臣道嗣等の答問の書簡、明應三年書寫の奥書あり。（阿、上賀茂神社）

揚名考　一卷　小山田與清　（刊本）

揚名介考とも云ふ。松屋叢考の中。天保二年成。

細井貞雄の玉椿にも揚名考あり。

四、辭解類語索引

源氏秘抄　（傳本不明）

原中最秘抄に見ゆ。いろは分。一說に仙源抄の一名と云ふ。

仙源抄　一卷　長慶院　（群書類從）

長慶院の御撰を藤原長親（耕雲山人）の繕寫したるもの。類從本は後人の改訂を經たり。一名いろは御抄（抄）、源氏色葉抄、源氏物語色葉聞書之事、類字源語（類字）。源語歌集（源語類集の誤寫か）と題したる寫本には耕雲の父妙香寺內府家賢作と云ふ奥書あり。弘和初年成。應永

三年の奥書あり、次に耕雲山人明魏の奥書あり。南朝長慶院源氏御註と題せる寫本には、たゞいろはと內題あり。（圖、內、神、京、彰、吉澤義則博士）

類字源語抄　一卷　竺源惠梵　（續群書類從）

舊本の錯亂を改めて新に寫し出したるものと云ふ。永享三年成。一名源語類字抄。

仙源類聚抄　一卷　（寫本）

仙源抄と類字源語抄とを合冊せるもの。（三條西家）

續類字源語抄　一卷　法眼紹永　（續群書類從）

類字源語抄に增補するため、仙源抄の中より類字源語抄になき註を抄出せるもの、文明十一年成。類字源語抄に附錄とす。一名仙源抄抄出。

水滴色葉類聚抄　一卷　三光院實澄　（寫本）

仙源抄と源語類字抄より語句をいろは順に拔抄して幷せ載せ、註をも共に載せ、また私云として實澄の今案をも加へ揭げたり。奥に仙源抄の跋文及び竺源惠梵の奥書を附す。永祿三年十一月成。（圖）

源氏目安　七卷　（刊本）

三冊本。諸種の源氏物語の古版本に附刻して刊行せらる。一名源氏目案、類字源語抄、源語爪印、源氏爪印。

源氏註解　一卷　（寫本）

二冊本。各卷名の下に卷名出所歌をあげ、卷中の語をいろは順にあげて解釋したるもの。源氏物語解とも題す。花鳥餘情、弄花抄、禪閤御說等を引けり。（靜）

源氏清濁　一卷　（寫本）

中院家の著書、卷の順に語をあげ、四聲點、濁點、振假名を付し、稀に註を加ふ。源氏詞清濁と題する書も、源氏よみくせと題する書も同樣の書。（京、國）

源氏古今集要語　一卷　（寫本）

源氏と古今集との語句を抜きて五十音順に並べて卷名丁數を記す。（池田龜鑑氏）

源氏物語正誤　一卷　（寫本）

各卷別に語句を抄出し、諸本の本文の惡き點を指摘し、その讀み方の誤れるを正し、清濁を論ず。原題名不詳。（池田龜鑑氏）

源氏詞註　一卷　（寫本）

爪印よりも簡略。（三矢重松博士稿）

源氏歌言葉　一卷　（寫本）

上段に物語中の單語を卷の順に抽出し、下に略解を附す。必ずしも歌の言葉に限らず。或ひは和歌に用ゐるべき詞の意味か。（佐佐木信綱博士）

源氏古註　三卷　（寫本）

各卷別に語句を抽出し、短註を加へ、解書の體裁をなす。源氏歌言葉に似たる書なれど、それよりも詳し。（國）

源偶篇　一卷　契沖　（契沖全集）

貞享二年成。全く舊註による。源氏故事詞分を附す。源偶篇は單語の註解。源氏故事詞分は主なる事件事項の索引、これは、なの部までにて以下はなし。

源氏大和詞　三卷　（元祿九年刊、寶永四年刊）

一冊本。一名源氏大和言葉卷、一名源氏大和言葉大成。源偶篇を刊行したるもの。中は稍訂正增補せられ居るも全く同じ。源偶篇と同じく、いろは分とし、その中を卷名別とす。源氏故事詞分はなし。（帝）

源語詞要　一卷　靈元院　（寫本）

語句を抜きて分類したるもの。動物、植物、雜物に分つ。（列聖全集解題）

源語詰　三卷　五井純禎　（寫本）

四卷本もあり。天文、地理、時候、以下諸部門に分ち、その中を卷の順に語をあげて解釋したるもの。（阿）

源語梯　三卷　（天明四年刊、文政六年刊）

源語詰を題名を變じて後人が纂訂刊行したるもの。天明五年の夏中井竹山その辨を著はして附刻す。いろは分となし、その中を虛詞、人事以下の諸部門に分つ。源註拾遺を引く事多し。（京）

掌中源氏物語　一卷　尾崎雅嘉　（寬政九年刊）

五十四帖人物一覽と題し物語中の人物をいろは別にあげて簡單に說明し、また五十四帖故事一覽と題し、物語の事項をいろは別に解釋したるものを加へ、初に總論解說を附したるもの。此の事項索引の前半は源偶篇に附せる源氏故事詞分と全く同じ。（著者）

源氏物語不拂塵　二卷　本多忠憲　（寫本）

源氏物語類語と題せる四冊本もあり。文化四年成。湖月抄によりて、いろは引にして、語句の卷名丁數をあげたるもの。（帝、岡）

辭解類語索引

源氏物語類語　六卷　岸本由豆流　（寫本）

五冊本もあり。一名源語類字。前書と同樣の湖月抄の索引の書。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

源氏物語玉の御須磨流　十六卷　荒木田守訓　（寫本）

五十音順に語をあげ、その語を含む文章を一々あげて詳しく解釋し、傍註に俗語譯を附す。文化十年成。（內、無）

源語雅言解　二卷　菅原種文　（寫本）

一名雅語纂解、源語纂解、雅言纂解。堀田倉子の請によりて作る。いろは引の源氏辭書。天保五年成。（帝）

源語童喩　三卷　佐佐木弘綱　（寫本）

いろは別に語をあげ俗語にて譯したるもの。（佐佐木信綱博士）

源氏事類　五卷　（寫本）

いろは分に諸種の事物の名稱をあげ、その名稱に當る物語の本文を抜抄したるもの。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

源氏彙筆　六卷　畑中盛雄　（寫本）

物語中の事物事項の索引の書。前書と同種の書、源氏彙言も同書か。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

源氏物語類語　百四卷　足代弘訓　（寫本）

種々なる原稿の寄せ集め、一貫したる成書にはあらず。（神）

源氏物語麻袋　五十卷　榎並隆璉　（寫本）

三十一卷本もあり。（京、佐佐木信綱博士）

源氏伊呂波分　三卷　（寫本）

一名源氏目錄、源語類詞。以上三書は語句の索引の書。いろは別に語をあげ、その語を含む文例を示して卷名丁數を記す。（靜）

源氏難語抄　十卷　齋藤彦麿　（傳本不明）

源氏物語類語詳解　十卷　富樫廣蔭　（傳本不明）

源語類聚抄　八卷　小山田與清　（寫本、未見）

源氏物語目次　三卷　小山田與清　（寫本、未見）

源氏物語目錄　五卷　小山田與清　（寫本、未見）

源氏節用集　一卷　（寫本、未見）

源氏爪印　一卷　黑澤翁滿　（寫本、未見）

五、梗概摘要

源氏木芙蓉　二卷　（寫本）

元久元年の正四位下行左近衛少將の奥書あるは僞作。源氏小鑑と同一書。（帝、內、阿）

源氏小鑑　二卷、三卷　藤原長親　（寫本）

長親が將軍勝足院義持に奉りたるもの。慶安四年版以下諸種の源氏物語の刊本に附刻したるは、原書を後人の改訂增補したるもの。前記木芙蓉や、慶長十五年活字本及び元和寬永頃の活字本（二種あり）が原本に近し。長文の跋文あるは原本になくして慶安本の刊行者山本春正の附したるものと思はる。源氏の註小鑑と題したる寫本は、本書を拔抄補訂したるものと見えて簡略なり。源氏目錄と題したる寫本もあり。一說に紹巴撰と云ふは誤。明曆三年版、寬文六年版、延寶三年版、明和三年版、寬延四年版（臨江齋紹巴撰とあり、寬文六年版の再刷本）、文政六年版（藤井高尙の序文あり）、刊年不詳版等あり、また奈良繪本あり。（圖、京、神、帝、北、吉澤義則博士、山脇毅氏）

源氏秘傳書　一卷　（寫本）

小鑑と同一書、俊成撰と云ふは僞書、浮舟の梗概の半ば以下は後人の作にして小鑑と全く異なる。（阿）

源概抄　二卷　（寫本）

小鑑と同一書、源氏抄と題せる一冊本、源海集と題せる三冊本、源鏡草と題せる一冊本（元祿年間田捨女筆）、源概集と題せる二冊本、和歌源概集と題せる五卷十冊本等も同一書。卷末に

文の覺と題する、物語中の手紙の往復に關する表を附したる寫本もあり。源氏大概と題する三冊本も同書か。（圖、神、彰、北、國）

源氏物語抄解　一卷（寫本）

小鑑と同一書。山路の露の事や跋文はなし。初に源氏目錄あり。（北）

源氏要文抄　一卷（寫本）

小鑑と同一書。卷首の源氏目錄や卷末の跋文なし。（京）

訂正源氏物語抄　一冊（明治卅九年刊）

北村季吟翁遺著、鎌垣春岡校閲、那賀山鹿城傍註とあれど季吟著と云ふは疑はし。おせうと云ふ女に書き與へしよしの寬文四年の季吟の奥書あり。初の方は小鑑と全く同一、明石の卷より以下は省略拔萃す。（大阪府立圖書館、著者）

源氏略章　一卷（寫本）

小鑑を拔萃し、更に簡單にしたるもの。

源氏肝要　一卷（寫本）

初詳しく、終の方は卷名出所歌のみを示したる所もあり。室町時代の著。（內、神）

源氏物語提要　六卷　今川範政（寫本）

永享四年の自跋あり。初に總論解說あり。此の部分は扶桑拾葉集にも入る。（東、京、阿、彰）

源氏大鏡　二卷、三卷（寫本）

一名三帖源氏、光源氏一部歌詞、源氏歌詞。初に解題あり、歌を揭出せる所多く、殆と原本の歌を網羅す。第三高等學校藏本淺聞抄はこれと同文章。（東、京、神、國）

源氏物語亘細　一卷　（寫本）

大鏡と同一書。（松井簡治博士）

源氏淺聞抄　二卷　（寫本）

一條兼良作と云ふは疑はし。大鏡に多少手を入れて改訂したるもの。ただ源氏物語と題したる同一文章の三卷本もあり。（圖、京、刈谷文庫、第三高等學校）

源氏無外題　三卷　（寫本）

大鏡を稍書き改めたるもの、淺聞抄の類書。初に源氏物語のおこりを附す。元和元年の紹之の奥書、萬治元年の定勝の奥書ある寫本あり。一名源氏紹旨無外題。（北）

十二源氏袖鏡　十二卷　（明曆二年刊、萬治二年刊）

一名源氏大略、十二帖源氏。源氏無外題と大方同文章なり。これを取りて出版したるもの。萬治版は繪入本にて、明曆版の再刷本。（內、京）

源氏物語大綱　一卷　（寫本）

內題には源氏大綱之事とあり。初に物語の來由を記し、箇條書に一と記して梗概を記す。所々に私云とて考證めきたる事を述ぶ。歌をあぐる事多し。大鏡と似たる所あり。終に語釋と目錄とを附す。頭註傍註に出典等を記し佛教に付會したる說を述ぶ。三冊本もありと見ゆ。（北）

源氏拔書　一卷　（寫本）

寬永十九年の奥書ある本あり。初に總論解題卷名目錄等を附す。源氏大鏡に似る。（神）

源氏詞知　一卷　（寫本）

前書と同書。これを少しく書き改め、所々割註を加へたるもの。五十四帖を名付くる事と題し

て梗概解說あり、終に有職故實の語を抜きて註解を加ふ。（神）

光源氏　一卷　（寫本）

源氏詞知と同一書。（國）

源氏末書　一卷　（寫本）

源氏詞知と同一書。（刈谷文庫）

源氏切紙　一卷　（寫本）

初に大意あり、次に目錄あり。和歌を多く揭げて各卷の梗概を記し、終に系圖を附す。甚だ源氏大鏡に似たる所あれど文章異なる。（國）

源氏藻鹽草　九卷　（寫本）

各卷別に梗概を記す。初に總論解說あり。河海、花鳥餘情等の註釋書をも說明す。本文は源氏大鏡に似たる所あり。甚だ詳細にて、終に山路の露の事を記す。（國）

源氏假名文章　一卷　（寫本）

極めて簡單なる梗概解說、終に物語中の人名をあげて略解を附す。（國）

源氏最要抄　二卷　（寫本）

源概抄に似たる梗概書。（國）

源氏要解　五卷　飛鳥井榮雅　（寫本）

二冊本。天文元年藤翁の奥書あり。箇條書にし　梗概を說明したる所あり。（神）

源氏營鑑抄　一卷　（寫本）

篝火まで。源氏大鏡に似て更に簡單なり。（阿）

光源氏勘用集　一卷　（寫本）

定家作と記せるは僞書。誤多し。終に后妃女官の順序を附す。文安三年、天正二十年の奥書あり。遊行上人よりの相傳と云ふ。（阿）

源氏綱目　九卷　一華堂切臨　（萬治二年刊）

萬治二年成。初に解題を附す。箇條書に梗概を揭げ、連歌に用うべき歌及び語句を抽出して註解を附す。繪入本。一說に西道智著と云ふは誤なり。（京）

十帖源氏　十卷　野々口立圃　（刊本）

萬治四年刊と云ふ。刊年未詳版あり。挿繪は著者の自畫なるべし。系圖を附す。（帝）

をさな源氏　十卷　野々口立圃　（近世文藝叢書）

五冊本。寛文十年版、寛文初年頃の松會版等あり。系圖を附す。十帖源氏を更に簡略にしたるもの。繪入本。（京、池田龜鑑氏）

源氏大概抄　十卷　（刊本）

をさな源氏の外題替にて、寛文十年版の再刷本。（東）

源氏物語忍草　五卷　北村湖春　（天保五年刊）

元祿初年成。刊本には著者の跋文の他、成島司直の序文、昌成の跋文あり。源氏小鑑以來の名著。名著文庫、日本文學大系本源氏物語に入る。

源氏道しるべ　二卷　素兒堂　（寶永三年刊）

梗概摘要

一冊本。初に總論あり。舊註の說による。本文は雨夜の品定の條の如きは全部略す。極めて簡單なる梗概なれど歌を載する事多し。（著者）

源氏をさながたり　一卷　（寫本）

卷名なく、全部を續けて平易に短く綴りなし、所々に割註を加へて人物關係などを說明したり。よき書なり。（國）

源氏年波草　十六卷　（寫本）

極めて詳細なる梗概。初に簡單なる解題及び系圖を附す。年立は舊註による。德川中期以後の作。（帝）

源語　一卷　（寫本）

二冊本。初に源氏の談義等につき解說あり。各帖別に梗概を記す。德川中期の著と覺しく俗語調の所あり。上田秋成筆と云ふ寫本あり。（帝）

源氏物語綱要　一卷　田中保之　（寫本）

天保三年成。原題名は子源氏物語。一名ゆかりの詞。初に解說卷名目錄あり。玉の小櫛に添へて見るべきものと云へり。（京）

源氏物語　廿八卷　（刊本）

初に大意目錄一冊あり、以下各冊に二帖づゝ各帖の略解を附す。各冊五丁の豆本、幕末の刊行。（池田龜鑑氏）

源氏物語大意抄　五卷　富樫廣蔭　（傳本不明）

源氏物語梗概　一冊　長連恒　（明治三十九年刊）

雅文にて記す。

源氏物語大意　一冊　尾上登良子（明治四十四年刊）

雅文にて記す。山路の露、雲隱六帖の梗概も附す。頭註、系圖、年表、系圖一覽等を添ふ。

源氏物語　一冊　窪田空穗（大正四年刊）

世界名著物語第十二編。口語の梗概書の最初。解題あり。

新譯源氏物語　三冊　坪内孝（大正四年刊）

一冊本もあり。新譯國文叢書の中。

通俗源氏物語　一冊　小山龍之輔（大正五年刊）

通俗叢書第六編。中澤臨川編輯、通俗教育普及會版。

源氏物語情話　一冊　吉井勇（大正七年刊）

興味深き讀物として書き下す。

源氏物語提要　一冊　物集高見（大年十一年刊）

古版本の挿繪を五十四葉挿入す。初に大むねとて全部一括の梗概あり。次に各卷別に大意を述べ、著者自詠の詠源氏物語和歌一首づゝを添ふ。

源氏物語　三冊（大正十一年刊）

世界名著梗概叢書の中。

縮譯源氏物語　一冊　島田退藏（大正十二年刊）

前記の三冊本を一冊に合本して、系圖年表を添へたるもの。

繪解源氏物語　一冊　物集高見（大正十三年刊）

源氏物語提要の挿繪を初に一括して口繪としたるもの。

新譯源氏物語　三卷　太宰衞門（大正十五年刊）

一冊とす。以上何れも卷名別梗概。

源氏物語　二冊（昭和二年刊）

萬有文庫第十六。卷名なく全部を續けて書きなす、詳細なる梗概。

源氏物語綱要　一冊　藤田德太郎（昭和三年刊）

佐々木信綱博士、與謝野晶子女史の序文あり。源氏物語の構想、文章、解說の三部より成る。構想は梗概を述べ批評を加へ頭註を附したるもの。文章は各卷より原文を拔萃し對譯を加へたるもの。解說には、平安朝小說の發達、源氏物語の解題、年表、系圖、組織、參考研究書目、附圖等あり。

昭和口譯源氏物語　一冊　長柄忠子（昭和四年刊）

新譯源氏物語　一冊（昭和六年刊）

此の二書は何れも同樣の內容を有する俗書なり。

以上の他、有明堂文庫本、新釋日本文學叢書本、日本文學大系本の源氏物語。島津久基氏の教科書用の源氏物語、金子元臣氏の定本源氏物語新解、源氏物語選、藤岡作太郎博士の國文學全史平安朝篇、五十嵐力博士の新國文學史、三浦圭三氏の綜合日本文學全史等にも梗概を附す。

六、原文抜萃

源氏物語抄出　一卷　（寫本）

永和三年僧覺筆。抄出本中の最古のもの。

紫塵愚抄　四卷　柴屋軒宗長　（寫本）

紫塵抄とも云ふ。各卷順に要所を抜萃したるもの。大永二年尊俊の奥書ある寫本あり。また三條西實澄外題を書き、飛鳥井雅綱、同雅春等の書きたる寫本もあり。「源鈔　宗長」（二卷）も同書なるべし。（帝、圖、國）

源語花錦抄　一卷　牡丹花肖柏　（寫本）

延德三年成。原文を各卷より一二ヶ所三四行宛抜きて註解を施したるもの。（神）

源語註　二卷　（寫本）

繪合より若菜までの抜書。註にはあらず。（圖）

源氏物語一部連歌可用詞　一卷　（寫本）

連歌に用ふべき詞を抄出したるもの。（群書一覽）

源氏藤花集　二卷　（寫本）

卷の順に抄出。（京）

源氏君昇進及源氏和歌　一卷　（寫本）

源氏官位昇進の次第を各卷より原文を抜萃して示したるもの。源氏和歌は各卷より一首づゝ五十四首を抜きたるもの。三箇の秘事を附載す。これと同書にて、源氏物語抜書と題したる寫本あり。（圖）

源氏抜書　一卷　（寫本）

箇條書に卷中の梗概を示し、その梗概に當れる重要なる箇所の原文を抄出して掲げ、その語に一々註釋を加へたるもの。野分より蓬生葉までの零本一冊存す。梗概書、註釋書を兼ねたるもの。古註を多く引く。源三知抄と似たる書。（著者）

源氏君夕霧におきて給へるやう　一卷　（寫本）

少女の卷の、源氏、夕霧を戒めたる言葉を抄出し、朱にて傍註を附し、初に系圖を載す。（神）

源氏物語詞書　一卷　靈元院　（寫本）

色紙に書かしめ給はん料に、卷毎に一章一節を抜き出でしもの。色紙五十四枚とす。正德四年成。正德五年の奥書あり。各卷毎に筆者の名を朱書せり。（列聖朶集解題）

源氏十二月詞書　一卷　靈元院　（寫本）

原文十二ヶ所を抜きて十二月に配したるもの。もと源氏十二月繪詞と云ひ繪の詞書としたるもの。（圖、國）

源氏八景　一卷　權大納言兼胤　（寫本）

原文八ヶ所を抜きて八景に配したるもの。これまた繪詞としたるもの。（京、圖）

源氏繪詞　一卷　（寫本）

原文抜萃

源氏繪卷より、その繪模様品物を列記し、詞書を抄出したるもの。各卷大抵二ヶ所づゝなり。（京）

古登奈志草　一卷（寫本）

內題には源氏物語之詞幷歌抄出とあり。各卷より卷名をあげて抄出す。（內）

源氏詞書琴棊書畵　一卷　家仁親王（寫本）

源氏物語調度抄出　一卷（寫本）

源氏物語音樂の事　一卷（寫本）

源氏舞樂香の書　一卷（寫本）

源氏物語拔書

此の類の抄出書はなほ多し。源氏詞、源氏言葉拔書、源氏之詞拔書、源氏卷々詞、源氏詞書、宇治十帖拔書などと題する雜多の寫本あり。靈元院、智仁親王などの御拔書の書、四卷、三卷、二卷、一卷など卷數不定。大抵四五行宛卷の順に拔き、中には雪、月、花等の見出しを附したるもの、簡單なる註解を附したるもの等あり。（京、圖、國）

源語部類　一卷（寫本）

四季部のみ存す。春夏秋冬の中を、更に譯、爲、梅等に分け、原文を拔き、源氏心、頭中將詞、地（自然の景）等の註を付す。（圖）

源語消息　一卷（寫本）

卷の順に手紙の部分のみを抄出したるもの。漢文の跋文を附す。（阿）

光彩　一卷　（寫本）

蔭、面影、光、つや、まばゆし等十三項に分ち、光に關係ある原文を卷の順に抄出し、頭註にその細分を示したるもの。（京）

源氏物語消息文集稿　一卷　服部菅雄　（寫本）

自筆稿本、享和元年成。（三矢重松博士稿

源氏物語抄　一卷　服部菅雄　（寫本）

重語部。（三矢重松博士稿）

源語斷錦　十卷　川上靜庵　（寫本）

物語中の熟語を抄出して、天地、時令、人倫以下の部類分とす。（群書一覽）

紫文消息　一卷　橋本稻彥　（文化四年刊）

一名小萩が本。卷の順に手紙のみを集めて人物の名の次に載せたるもの。頭書傍註を加ふ。

紫文製錦　八卷　橋本稻彥　（文化十四年刊）

四冊。春夏秋冬以下戀雜に部類分して、美文の箇所のみをあぐ。

紫語採英　一卷　（寫本）

桐壺、帚木、空蟬よりの抜萃。（三矢重松博士稿）

源氏物語抜萃　五卷　鈴木弘恭　（明治廿一年刊）

女學校用讀本として編纂、桐壺夕顏末摘花紅葉賀花宴の五卷。傍註頭註あり。原文を大段小節に分つ。同じ著者の源氏物語講義の中より五卷を抜きたるもの。

紫文摘英　一卷　本居豐穎（明治卅九年刊）

上卷一冊のみ。教科書用。頭註あり。

源氏物語精粹　三卷　沼澤龍雄（昭和三年刊）

一冊本あり。要所を抜萃して頭註梗概を附し、また系圖年表等あり。附錄に諸家の源氏評を抄出す。繪入本、索引付。

以上の抄出本は多く作文作歌の資料、その他教科書用に編纂せられたるもの。專門學校用の教科書も數多あれど、上記の若干の書のみ注意すべきものにして、他は今省略す。

七、有職故實

源氏男女裝束抄　三卷　月村齋宗碩（元祿九年刊）

宗碩の原著に渡邊康映が附錄を書き加へ、壺井義知が訂正首書を加へたるもの行はる。二卷は宗碩著に義知の補訂したる部分。後附一卷は康映の著と思はる。元祿九年版の他、寬政十二年版あり、それには義知の享保二年の跋文を加ふ。更に文政八年に渡邊康映編の名をもつて出でたる刊本あり。天保五年版もあり。宗碩の原著は永正十四年成。（帝、京、內、國）

源語裝束抄　一卷（寫本）

有職故實

洞院實熙の問に一條兼良の答へしものを主とし、肖柏の源氏物語不審條々や水源抄等の諸抄を引く。庭訓云と記せし所もあり。肖柏問答抄と合本一冊にせしものあり。（圖）

源氏官職故實秘抄　八卷　壺井義知　（國文註釋全書、國文學註釋叢書）

一名源氏男女官職事類私考、源氏男女故實秘抄。源氏官職私考と題せる二冊本もあり。各卷別に有職故實その他普通の語もあげて證文を引き考證を加ふ。少女まで。國文註釋全書本は橿までを刊行す。

源語問答　一卷　松岡行義　（寫本）

或人の問に答へしもの。裝束を主として其の他に及ぶ。（圖）

源氏物語骨抄　一卷　（寫本）

襲の色目、文、その他道具の項のみ抄出、諸抄を引くのみにて自說なし。叢書料本第十八冊の中。（帝）

源氏物語と日本庭園　一冊　外山英策　（昭和二年刊）

源氏物語の作者、先驅、自然描寫、庭園描寫等につきて述ぶ。

八、譯文飜案

源氏明石物語　一冊　（貞享三年刊）

虱本風の繪入本。明石上と源氏との物語を古淨瑠璃風に趣向して飜案したるもの。原書の歌を入れて註を加ふ。（帝）

風流源氏物語　六冊　都の錦　（近世文藝叢書）

浮世草子風の譯文。桐壺帚木の兩卷。元祿十六年刊。

若草源氏　六冊　梅翁　（寶永四年刊）

浮世草子風の譯文。享保六年再刊。風流源氏の後を受けて帚木の末より夕顏まで。奥村政信の挿繪入。（日本文學講座藤井乙男博士稿）

雛鶴源氏　六冊　梅翁　（寶永五年刊）

享保六年再刊。前書の後を受けて若紫末摘花の兩卷。奥村政信の挿繪入。（京）

紅白源氏　六冊　梅翁　（近世文藝叢書、帝國文庫珍本全集）

寶永六年刊。享保六年再刊。前書の後を受けて紅葉賀花宴の兩卷。奥村政信の挿繪入。系圖を附す。五卷六冊本。

俗解（ぞくげ）源氏　六冊　梅翁　（寶永七年刊）

享保六年再刊。源氏物語俗解抄とも云ふ。桐壺と帚木の雨夜の品定まで。奥村政信の挿繪入。初に立返つて補足したるもの。（北）

若草源氏　七冊　梅翁　（元文三年刊）

俗解源氏、若草源氏、雛鶴源氏の三部を一書として、初に俗解源氏の寛永七年の序文を載せたるもの。紅白源氏は省く。末摘花まで。再刷本。奥村政信の挿繪入。

新橋姫物語　きし女　（正徳四年刊）

一名都の辰巳。宇治十帖の俗語飜譯。（日本文學講座藤井乙男博士稿）

湖月抄諺解　四十五冊　（寫本）

全譯書。本文なく譯文のみ。譯文の中に割註にて所々に語句の註解あり。各巻の初にその巻の解説あり。桐壺のみ重複するゆゑ、四十四冊にて全部あり。（池田龜鑑氏）

紫文蜑之囀　七十二冊　多賀半七　（寫本）

桐壺より空蟬まで三巻四冊は享保八年刊。享保六年の序文あり。夕顔まで刊行せられたりと云ふ。また別に第一巻は摘趣と名付けて各巻の要所を批評せるものと凡例とを一冊になしたりと云ふ。これを加へて、刊本五冊ありとも云へり。珍書刊行會叢書第五冊には帚木まで二巻を收む。原稿は宿木まで出來して末五帖を遂げずに病死したりと云ふ。譯文の頭註に原文の語句の解釋を附す。巻頭に趣向と題して評論を加ふ。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

俳諧源氏　十冊　建部綾足　（寫本）

寛延二年成。讀本風に飜案したる雅文小說。全部の巻名毎に別に讀本風の見出を附す。和歌の代りに俳諧を挿入す。武士時代の事となしたれども梗概は原書と大體同じく、原文を取りたる所も多し。田舍源氏の先縱。（大島雅太郎氏）

源氏遠鏡　二冊　栗田直政　（天保十一年刊）

城戸千楯の序文あり　鈴木朗の訂閲。若紫巻のみ。（帝、京、神、自筆稿本石田元季氏）

源氏物語賤の苧環　四十一冊　桑原如則　（寫本）

弘化五年二月成。全譯書。今一冊缺けて四十巻を藏す。（仙臺圖書館）

源氏鄙詞　一冊　臼杵梅彦　（寫本）

版下本。嘉永四年成。玉蘭齋貞秀の繪入本。鶴峯戊申の序文あり。桐壺巻のみ。初に解題を附し、簡單なる頭註あり。（帝）

通俗源氏物語　五十四冊　小林元有　（寫本、未見）

新編紫史　十冊　增田千信　（明治廿一年——廿七年刊）

一名通俗源氏物語。小中村清矩、末松謙澄博士の序文あり。大意解題を載す。挿繪入。頭註あり。

似而非源氏　一冊　下野遠光　（明治廿五年刊）

讀本風の見出を附す。著者の口述の筆記。桐壺帚木の兩巻のみ。尾形月耕の挿繪入。

新釋源氏物語　二冊　藤井紫影、沼波瓊音　（明治四十四年、大正三年刊）

佐々醒雪、笹川臨風

桐壺より澪標まで。初に梗概、終に總評あり。頭註に語釋を附す。各段に一々評を加ふ。

新譯源氏物語　四冊　與謝野晶子　（明治四十五年——大正二年刊）

口語の全譯の最初。後縮刷本、合本二冊本も出づ。

源氏物語須磨明石　一冊　沼波瓊音　（大正四年刊）

兩卷の全譯に須磨までの梗概を添ふ。新釋源氏物語よりの抄出。

頭註對譯源氏物語　六冊　宮田和一郎　（大正十二年——昭和三年刊）

須磨明石までと宇治十帖。上段語釋、中段原文、下段口語譯、初に概要あり。

源氏物語　六冊　（大正十三年——昭和二年刊）

吉澤義則博士監修。全譯王朝文學叢書第四編より第九編。頭註あり。

全譯源氏物語　二冊　鈴木正彦　（大正十五年、昭和二年刊）

漢譯「紫史」　（空蟬卷）　一冊　川合次郎　（明治二十六年刊）

菊池三契の「譯準綺語」（明治四十四年刊）にも若紫の初の方の漢譯あり。また他に帚木の終の方、及び空蟬の漢譯もありと云ふ。

英譯「源氏物語」　（十七帖）　一冊　末松謙澄　（明治十五年刊）

獨譯「源氏物語」　（十七帖）　一冊　Müller ja Busch　（明治四十四年刊）

前書の獨譯。重譯書。

英譯「源氏物語」　四冊　Arthur Waley　（大正十四年刊——）

第五冊以下未刊。

Aston の英文日本文學史、Florenz の獨文日本文學史、Gundert の獨文日本文學史、Revon の佛文日本文學史等にも一部分の飜譯あり。

九、年表系圖

源氏物語年立　一卷、二卷、三卷　一條兼良　（刊本）

享德二年成。永正七年の冬良の奥書あり。湖月抄附錄とす。

源氏物語系圖　一卷　（刊本）

一條家に傳はりたるもの。天文十九年の藤華宋央の奥書あれば、それ以前のもの。湖月抄附錄とす。

源氏物語年立　一卷　（刊本）

首書源氏物語の附錄としたるもの。

源氏物語系圖　一卷　逍遙院實隆　（刊本）

古來傳はりたる系圖に異同多ければ、實隆がこれらに刪修を加へて新に作りたるもの。長享二年春の自跋あり。首書源氏物語の附錄とす。また此の自跋の代りに、長享二年春に牡丹花肖柏等相談の上宗祇に指南を乞ひたる由の永正九年の奥書ある寫本あり。光源氏物語系圖と題せる寫本あり。此の系圖の、系圖之外人の部分のみを寫したる源氏系圖外人と題せる寫本もあり。（阿、圖）

源氏系圖　一卷　（寫本）

宗祇の筆創せしものと內容同じき由の永祿七年の奥書あり。前記長享本の祖本かと云ふ。（池田

（鑑氏）

源氏物語系圖　一卷　（寫本）

初に源氏の物語のおこりを附す。湖月抄本の祖本かと云ふ。（神）

源氏物語系圖　一卷　（刊本）

慶安三年版、承應三年版の源氏物語に附す。上記の系圖により山本春正の刪訂せしものなるべし。

光源氏系圖　二卷　（寫本）

上記の諸書に似て、一層簡單なるもの。（圖）

源氏物語系圖　一卷　（寫本）

賀茂眞淵筆と云へど疑はし、草稿本と見ゆ。卷の順に人物の略傳を記す。體裁は前記の諸書と似る。（北）

源氏系圖小鑑　一卷　（寫本）

物語中の人物の略傳を記したるもの。源氏系圖歌小鑑と題したる寫本もあり。（京、帝）

源氏年紀考附年立圖說　一卷　本居宣長　（本居宣長全集）

舊說の誤謬を訂したる名著。年表は宣長の創意になる明快なるもの。後玉の小櫛の中にも入る。

源氏物語名寄圖　一帖　（刊本）

人物を網羅して一覽表としたるもの。

源氏物語名寄圖考　一卷　清水濱臣　（刊本）

前記の書に註釋解說を加へたるもの。（國語と國文學源氏物語號松井簡治博士稿）

源氏物語菫草　三卷　北村久備　（文化九年刊）

上中兩卷は系圖、下卷は年表。平田篤胤の序文あり。此の種の書の最良書。國文叢書本、日本文學大系本の源氏物語に附錄とす。（神、彰）

改正源氏物語年立圖　一帖　森嘉基　（文政三年刊）

菫草によりて簡單なる一枚刷としたるもの。（阿）

補訂源氏物語系圖　一帖　森嘉基　（文政三年刊）

前書と一双をなす。（池田龜鑑氏）

掌中源氏物語年立　一帖　山田常典　（弘化元年刊）

掌中源氏物語系圖　一帖　山田常典　（弘化元年刊）

兩書は一双の書となす。（內）

掌中源氏物語年立　一卷　横山由清　（寫本）

自筆稿本。山田常典の年立にならひて、玉の小櫛、菫草を參考とし、簡便に記したるもの。慶應四年成。（佐佐木信綱博士）

源氏年立私考　三卷　（寫本）

上卷は詳細なる年立。中卷は系圖。下卷は各卷別に人名をあげて上段にその人物の年齡を記し、中段にその卷に於けるその人物の官職位階等を記し、人物の通稱を記して說明にかへ、下段は卷中の歌謠音樂に關する事項を揭出したり。菫草よりもよき本なり。（阿）

源氏物語諸抄年月考　一卷　林道春　（傳本不明）

源氏物語年立考　一卷　本居内遠　（傳本不明）

源氏要覽　一冊　鈴木文子　（昭和四年刊）

圖表表解の書。各卷別の系圖を主とす。

十、大意解說

源氏物語故實　一卷　堯惠　（寫本）

源氏供養表白、同名所、同歌數、同始の詞、同衣色目等を記す。文明十五年成。一條禪閤の說によると奥書にあり。供養表白の終には法橋肇載の奥書あり。（三矢重松博士稿）

抄之抄　一卷　（寫本）

諸抄の解題、卷名の事、目案拔書、故實、卷々の歌、萬水一露引歌の拔書等より成る。（三矢重松博士稿）

大意解說

源氏秘義抄　一卷　（寫本）

初に各卷名の由來を詳しく述べ、次に源氏に關する雜說をあげ、語釋故事を記し、終に總論あり。て河海抄の源氏述作由來の說等を記す。（國）

光源氏物語大意　一卷　搬柴　（寫本）

此の人の著書には「土佐日記見聞抄」（小野山隱士搬柴記）と云ふものもあり。（神）

源語提要　一卷　村田春海　（寫本）

版下本と思はる。（神）

源氏の物語のおこり　一卷　（寫本）

源氏大鏡の發端と同一文章。また、源氏澁牓と題せる寫本もあり。繪卷物となせる古寫本もあ

り。續群書類從本源氏物語千鳥抄の奥にも載す。以上三書は何れも源氏物語の發起、式部の事、準據說その他の解題をなしたるもの。（國）

源氏のおこり　一卷　（寫本）

源氏物語の解說。源氏大鏡の發端の文章とは全く異なるも記せる事は大方同じ。それより後のものと思はる。附錄に、源氏物語の諸本註釋書の名等を記憶歌に作りしもの廿五首を添ふ。宇治大納言物語、河海抄、花鳥餘情等を引く。（佐佐木信綱博士）

源氏物語發端聞書　一卷　（寫本）

天正三年成。解題の後に桐壺帚木の兩卷の卷名出所につき詳しく說明す。（神）

玉榮集　一卷　慶福院花屋玉榮　（寫本）

初に總論あり、大意、人物を評し、佛教に付會して論じたる所多し。次に各卷別に歌句を抜き

大意解說

て論評説明し、終に語句の解釋を附す。慶長九年成。花屋抄の著者と關係あるか。（池田龜鑑氏）

源氏箱入日記　一卷（寫本）

延寶五年の寫本あり。河海抄の總論等を拔萃す。（岡）

壺菫　一卷（寫本）

貞享四年成。石出常軒の息の著。解題の後に註釋書目を載せ、卷名出所歌の註解を附す。長き跋文あり。（京）

紫文要領　二卷　本居宣長（增訂本居宣長全集）

寶曆十三年成。解題の他、大意の事と題し、物のあはれを論ず。

十一、批判論評

伊勢源氏十二番女合　一卷（群書類從）

左伊勢物語、右源氏物語の女性を一人づゝあげて合せ、その優劣を論評したるもの。

源氏人々の心くらべ　一卷（群書類從）

源氏にあらはれたる人物を一人づゝ論評したるもの。源氏心くらべとも題す。源氏六條院御方方、及び、忍びて通はせ給ふ人々と題したる書加へを附したる寫本もあり。

源氏四十八ものたとへの事　一巻　（寫本）

一名源氏心くらべ。箇條書に、男、女、尼、心苦しき事、怨めしき事等の項目を揭げて物語中のよしと思ひし人名、事項等を載す。（阿）

源氏解　一巻　（慶安三年刊）

前書と同一の項目を揭げ、同種の書なれども、その人名、事項等は異なる。源氏一部のうちにすぐれたる事と内題す。古寫本を得て刊行すと云ふ。一方が他を模倣したるものなるべし。（神）

源氏の義　一巻　（寫本）

初に各人物の素性を說き、大意を佛敎に引きつけて解釋す。元和十年成。（池田龜鑑氏）

五月雨のこと葉　一巻　（寫本）

佛說によりて物語の大意を解釋す。各人物の性格の評論に肯綮に當る說あり。前書と類似の書。文化九年の水月庵の寫本あり。（帝）

源氏花鳥芳囀　一巻　土肥經平　（寫本）

初に大意批評あり。準據說を論じ、源氏の心詞歌を取りて、詠める歌を勅撰集より抜きて說明し、十五箇條の奥義の事や古註の誤れる所等を論ず。明和八年成。（阿）

源氏ひとりごと　一巻　伊勢貞丈　（寫本）

物語述作の由來、作者紫式部の智識、文章に俗語ある事、此の物語の本意すぐれたる所、その他の批評を隨筆的に揭ぐ。安永十年成。（文、佐佐木信綱博士）

紫文紅筆　一卷　橘たか女　（寫本）

雪隱の本文なき所以につき自說を述べ、諸抄の誤れる說を駁したるもの。此の物語の讀み方の心得に說き及ぶ。卓見に富める說あり。天明五年成。自跋あり。主君の仰を蒙むりて奉ると云ふ。原題名は不詳。（帝）

雨夜閑話　一卷　葛西因是　（寫本）

雨夜の品定の批評。本文を記し、その欄外行間に葛西休文（因是）が漢文で評を加へ、村田士觀（春海）が重評を加へたるもの。漢文の序文あり。詳細に物語の大意を批評す。享和三年成。天保十一年の門澤仲舒の跋文あり。嘉永元年の寫本あり。（帝）

葵の二葉　十八卷　堀內昌鄕　（寫本）

十九冊本。大鏡の體を眞似、人々打寄りて笑ひ興じて相語りし樣に作りなす。源氏物語は男女の教に書きたる由、各人物の性格の批評、必ず人物を對照して點出せし由、その他の雜說を說く。天保十一年成。（京）

底の玉藻　十卷　堀內昌鄕　（寫本）

前書の續篇。準據說を說き、原文をあげて一々史實や物語書と比較す。夢路の秋草と題せる此の物語の長き感想文を附す。（京）

源氏紐鏡　一卷　源匡平　（安政六年刊）

前記兩書を昌鄕の男匡平が撮要縮約して讀み易く書き改めたるもの。前半は人物の批評、後半は準據說なり。安政五年成。（京）

源語奧旨　一卷　近藤芳樹　（明治九年刊）

源氏創作の動機とその目的意義を論じたるもの。盲誕の說あり。國文叢書本源氏物語に附す。

光源氏の一生　一冊　高須梅溪（大正六年刊）

物語中の人物を一人づゝあげて、その傳記を叙し、性格行爲を論じたるもの。

源氏物語號　一冊（大正十四年刊）

國語と國文學第二十八號。二十家の研究論文を收む。

源氏物語の新研究　一冊　手塚昇（大正十五年刊）

國文學研究叢書第四編。物語の解說、成立年代、準據說等を論じたるもの。

源氏物語號　一冊（昭和六年刊）

月刊日本文學第一卷第四號。十家の研究論文を收む。

これらの他、藤岡作太郎博士の「國文學全史平安朝篇」五十嵐力博士の「新國文學史」山口

剛氏の「源氏物語研究」（文學思想研究第一卷所收）和辻哲郎氏の「源氏物語について」（日本精神史所收）鳥津久基氏の「源氏物語研究」（日本文學講座第四卷）同氏の「源氏物語と宮廷生活」（日本文學聯講第一期）等の評論も參考すべし。また、「更科日記」「無名草子」等の批評をも參考すべし。

紫家七論　一卷　安藤爲章（國文註釋全書）

紫女七論とも云ふ。元祿十六年成。伴資矩、藤原祐之の跋文あり。尙友軒月叟の奥書ある本あり。千年山集にも收め、國文叢書、新釋日本文學叢書、名著文庫源氏物語忍草等の附錄に收む。

日本紀御局の考　一卷　藤井高尙（百家叢說）

紫式部日記に見ゆる日本紀とは國史の意味にて日本書紀の事にはあらずと論じ、此の物語の準據は嵯峨帝時代の歷史に合する事を考證す。文化八年刊。

紫式部　一冊　綠亭主人（明治二十九年刊）

家庭叢書號外。式部の傳記より物語の評論に及び、終に物語の各巻別の梗概を附す。

清少納言と紫式部　一冊　梅澤和軒（明治三十五年刊、明治四十五年刊）

紫式部と清少納言　一冊　須崎邦武（昭和五年刊）

少年讀物川の平易なる傳記。

大日本史第二百三十三巻の紫式部傳も參照。

十二、和歌抄出

源氏狹衣歌合　一巻（群書類從）

左源氏、右狹衣。

源氏巻歌　二巻（寫本）

初に總論あるは源氏大鏡の發端と同文。歌は流布本と稍々異なる。（高野辰之博士）

五十四帖の歌　一巻（寫本）

各巻より一首づゝ秀歌を抜き巻名と作者名を附し、百人一首風に散し書にしたるもの。（神）

源氏花いどみ歌目付　二巻　（寫本）

物語中の人物十名の名を一丁に書きて、その上に花を詠み込みたる歌一首づゝを抜きて、散し書に配したるもの。兩巻に歌十首百名づゝ書く。（圖）

おきつなみ　三巻　（寫本）

源氏の歌を分類し、上巻に四季、中巻に戀、下巻に祝の歌を收む。（圖）

源氏和歌集　二巻　（寫本）

巻別に勅撰集風に抄出配列し、詞書を加へ、短註を添ふ。（圖、國）

源氏歌鑑　一巻　（刊本）

一名源氏物語歌。巻の順に和歌を抄出し、下に作者の名をも記したる。全部の和歌を網羅す。此の種の本には、源氏の歌、源氏物語巻之歌、源氏物語歌集、源氏引歌等種々の本あり。（京、國）

源氏歌鑑抄　三巻　（寫本）

前記の書の註釋。孟、細、抄、師、哮、祇、箋、明、花、海等を引く。（前田家）

源氏物語歌　一巻　（寫本）

各巻より和歌を抽出し、丁數を記す。（佐佐木信綱博士）

源語歌鈔　三巻　松岡明義　（寫本）

一冊本。桐壺より朝顏まで三百四十一首の和歌を抄出。（圖）

源氏百人一首　一巻　黒澤翁滿　（天保十一年刊）

物語中の人物百廿餘人を抜き、その詠歌一首づゝを抜きて人物畫を添へ、頭註を附し、略解略傳を加へたるもの。初に總論あり。本文のみは、佐佐木信綱博士の「註解七種百人一首」袖珍文庫の「十三種百人一首」に入る。

源語歌集　一巻　高田宣和　（寫本）

湖月抄の巻數丁數をあげて歌を並べ、作者を分類し、初句を類纂す。慶應三年成。（三矢重松博士稿）

これらの他、拾遺百番歌合、風葉和歌集、物語抜歌と題する寫本等にも多く源氏物語の和歌を入る。

十三、故事引歌

源氏引歌　一巻　（刊本）

源氏に引用せられたる歌を巻を追うて抄錄す。古版本の源氏物語に附錄とす。前記の源氏引歌とは同名異書。

源氏掌故　四巻　有賀長伯　（寫本）

物語中の後世に取り用ゐられたる故事詞歌等を、原文を抄錄して、後世の歌を附したるもの。

（群書一覧）

故事引歌

源氏支流　四巻　（寫本）

前書と大方同一の書。原文を抜萃して四季雜に分ち、その條を詠みたる後世の歌を所々に載す。三冊本もあり。（靜、阿）

源氏作例秘訣　二巻　（寫本）

前記兩書と同樣の書　初に詠格詞寄を載す。これは物語より歌詞に適當なる詞を抽出し、卷名を記したるもの。次に各卷順に原文和歌を抄出し、その意又は詞を取りて詠める歌を諸書より載す。（北）

十四、詠源氏物語詩歌

源氏物語表白　一巻　安居院聖覺　（萬治三年刊）

源氏供養表白と題する古寫本あり。文化十三年版の源氏表白文章も同一にして、往來物の一とす。湖月抄に附載す。また八洲文藻、拾遺後葉集、謠曲評釋源氏供養頭註等に收む。五十四帖の卷名を詠み込みたる假名の表白。（內）

源氏物語表白　一巻　（寫本）

右の聖覺の表白に、聖覺の父安居院澄憲の源氏一品經と云へる漢文の諷誦文を取り合せて、お

伽草子風に物語を作り上げたるもの。一名源氏供養草子。古物語類字抄には安居院聖覺法印源氏供養諷誦文之記と題して收む。謠曲の源氏供養はこれによる。（圖）

源氏物語願文　一卷　（群書類從）

表白にならひて漢文に作りかへたるもの。五十四帖の卷名を詠み込む。

源氏卷次第文字鎖　一卷　後陽成天皇　（列聖全集）

一名源氏物語文字鎖、源氏物語目錄長歌七五之文字鎖。七五調の韻文に作りて一句毎に各卷名を詠みこみしもの。一說に逍遙院實隆作と云ひ、また作者不明となす。安永七年版には後光明院御製となす。源氏文字ぐさりと題して、寶曆十三年版の書札指南大全の頭書となし、百源氏名寄と題せる白字法帖風の寬政十年刊本等もありて、往來物の一として行はる。八洲文藻、雅遊漫錄等に入る。

源氏物語名寄文　一卷　（刊本）

前記のものと全く同じく、たゞ終の方が手紙の文句となれるのみ。豆本として出で、女訓百人一首教鑑の頭書、寬政七年版の源字名寄文章等も同一書。安永七年版の長雄源氏かな文章、源氏五十四帖かな文等も同一か。往來物の一。（著者）

源氏物語文字鎖　一卷　後水尾院　（列聖全集）

一名源氏卷次第文字鎖、前のものと異なる。初に「桐壺の更衣うせてのち契り空しき御歎き」とあり。八洲文藻に入る。

源氏卷名和歌　一卷　藤原定家　（寫本）

各卷の卷名を詠みこみし歌五十四首。源氏目錄の和歌とも題す。源氏要解の卷頭にも載す。國語と國文學源氏物語號にも出だす。此の歌の註釋書に次の如きものあり。

源氏增鏡　三卷　宗祇　（寛文十二年刊）

二冊本。箇條書に註解す。繪入本。源氏詠歌註、源氏物語歌註（細川幽齋寫）、源氏目錄の和歌と題せる永祿十年の飛鳥井榮雅の寫本あり。（京、神、久原文庫、松井簡治博士）

山頂湖面抄　二卷　祐倫　（寫本）

一名水原抄、祐倫抄、源氏詠歌註、源氏秘書、源氏秘抄、源氏和歌秘抄、一冊本もあり。宗祇の增鏡はこれを增補訂正したるもの。文章同じき所多し。文安六年成。（圖、京、松井簡治博士）

昌伯源氏註　一卷　里村昌伯　（寫本）

源氏卷名歌ノ序幷註附昌伯源氏註と題す。祐倫の定家の詠源氏物語和歌註に里村昌伯（安永九年歿）の註を別に三丁加へたるもの。（三矢重松博士稿）

源氏官名和歌　一卷　藤原爲家　（寫本、未見）

賦光源氏物語詩　一卷　（群書類從）

各卷の大意、及び紫式部を詠みたる漢詩。正應四年成。

源氏物語宴竟記　一卷　九條植通　（群書類從）

弘治元年閏十月より永祿三年十一月まで三條西公條の源氏物語の講義あり。同三年竟宴行はる。その時の聽聞者の和歌を集めたるもの。序文は植通記。公條も記す。各卷につきて詠みたる和歌あり。終に連歌を附す。一名源氏物語竟宴和歌集。別に、天正十年二月十八日、九條禪閤より松永貞德幼名勝熊が源氏物語を承傳せし時の竟宴の連歌、光源氏物語竟宴之會を附せし寫本もあり。（阿）

源氏供養 附百韻　一卷　義俊親王　（寫本）

大覺寺義俊親王源氏物語の講談後に供養の爲め、永祿九年五月九日百韻を張行せらる。題何船。作者義俊親王、心前、紹巴、昌叱、秀水等。（三矢重松博士稿）

源氏國名百韻　一卷　（續群書類從）

一條殿御會の連歌に源氏卷名と諸國國名とを交互に詠み込みしもの。なほ此の類の、源氏卷名を詠み込みし謠曲の小謠、ゆづり葉と題する小謠集所收。一名源氏の題、使用謠所收。

源氏の名寄の舞　（寫本）

卷名を詠み込みし謠曲の小謠、ゆづり葉と題する小謠集所收。一名源氏の題、使用謠所收。

源氏物語大意　二卷　釋祖能　（刊本）

各卷の大意を詠み込む。藤簍冊子所收。

詠源氏物語和歌　一卷　（寫本）

各卷名を詠み込みし和歌（詩一首あり）を諸大名家臣等の詠ぜしもの。堅田侯の御集と云ふ。

詠源氏物語和歌　上田秋成　（文化四年刊）

門人天野直方が祖能の源氏物語各卷を詠じたる和歌に註解を加へたるもの。（圖、帝、京）

作者には仙臺少將齋宗朝臣の如き大名の他、松浦靜山、成嶋司直、清水濱臣、一柳千圀、安田躬弦、村田たせ子、塙保巳一の如き人物を集めたり。文化十一年成。清水千清叢書第十五冊の中。（帝、國）

源氏竟宴和歌　一卷　松平榮子　（寫本）

齋藤彦麿の源氏物語の講義を聞き、天保十一年竟宴の際に、物語中の女性五十一人を知己の人

人と共に詠みたるもの。彦麿の跋文あり。（大日本歌書綜覽）

今様源氏狂歌合　一卷　青雲亭光海　（天保三年刊）

千種庵諸持の序あり。源氏各卷の文章を引き、その情趣を狂歌に詠む。彩色繪入本。（池田龜鑑氏）

二藍源氏　二卷　淺草庵春村　（天保十二年刊）

一冊。五十四帖の卷名に擬して、契戀、待戀、切戀等の歌題を出し、淺草庵派の諸國の狂歌師の詠じたる狂歌を黒川春村が撰びたるもの。（國）

教訓道歌　さとび源氏寫眞鏡　一卷　太平館若本　（文久元年刊）

源氏各卷を詠みこみしよしこの集。なほ、此の類の源氏各卷詠みこみの都々逸、伊豫節、大津繪節等の俗謠本多けれど省畧す。多く繪入本にて源氏香圖などを配す。（池田龜鑑氏、著者）

家庭新詩　源氏物語　一冊　溝口白羊　（明治卅九年刊）

梗概書ともなれり。

十五、繪　　圖

源氏物語繪卷　四卷　藤原隆能

隆能源氏と云ふ。德川義親侯三卷、益田孝男一卷所藏。源氏物語繪詞と題する模寫本あり。複製本も出づ。隆能又は隆親畫と云ふ。

源氏物語繪卷　土佐光信、光起等

石山寺その他に藏す。土佐家にては代々源氏物語の大和繪を描き、種々なる繪卷物存す。

源氏物語押繪鑑　二十七面

久原文庫所藏。

源氏草子　一卷

久原文庫所藏、桐壺より葵までの繪卷物。

源氏物語草子繪

原富太郎氏所藏。

奈良繪本源氏物語

此の他の源氏物語繪に關しては、黒川眞頼博士の考古畫譜參照。今省畧す。雜誌國華にも多く出づ。

源氏　一卷（寫本）

一名源氏和歌、物語の歌を抜きてそれに繪を配したるもの。（帝）

源氏十二月畫　一卷（寫本）

前記源氏十二月詞書の原本。（京）

源氏鬢鏡　二卷　小島宗賢、鈴村信賢（萬治三年刊、天和三年刊）

一冊本。萬治版は各卷の繪を一枚づゝ挿み、頭書にその卷の大意を說明し、連歌師のその卷名を詠み込みたる發句を添ふ。源氏小鑑を撮要したる由序文に見ゆ。天和版は頭書の文句を右面に移し、左面に繪を置く。繪は雛屋立圃の筆なるべし。（帝）

發句繪入　源氏道芝　一卷（元祿七年刊）

萬治版源氏鬢鏡の再刷本。（伊勢某氏）

源氏繪寶枕　一卷（正德三年刊）

天和版源氏鬢鏡の再刷本。終に連歌師の系圖を附す。（帝）

源氏繪抄　三卷　野々口立圃（刊本、未見）

源氏大和繪鑑　二卷　菱川師宣（貞享二年刊）

新板源氏繪鏡とも題せり。簡單なる繪說、歌等を挿む。（東）

源氏物語繪抄　四卷（刊本）

元祿年間成。菱川風の繪にて簡單なる解說あり。湖月抄の本文を上欄に抄出す。（東）

源氏物語繪抄　四卷　松井文正祐孝（寫本）

自筆稿本、元文五年成。前書と同様の書（大島雅太郎氏）

源氏百人一百錦織　一卷　北尾重政（天明五年刊）

彩色摺繪本。（帝）

雅俗繪源氏　一卷　北尾重政（天明八年刊）

清雅源氏物語　三卷　西川祐信（刊本）

繪の他に各卷の梗概をも記す。（池田龜鑑氏）

風流畧源氏　一卷　磯田湖龍齋（刊本）

繪のみ。

源氏繪物語　一卷　一陽齋豐國（刊本）

一筆庵主人の序文あり。彩色摺繪本。

雅情濃粧　源氏物語　三卷　寺井重房（寬政三年刊）（東）

繪本源氏物語　三卷　月岡丹下（刊本、未見）

繪本草源氏　一卷（刊本、未見）

源氏物語五十四帖繪盡　一卷（文化九年刊）

右何れも、繪の餘白に卷名出所歌（その他、本文の歌詞、解說等）を入れて、源氏香圖を配し

たるもの。（著者）

源氏繪盡大意抄　一卷　溪齋英泉　（天保八年刊）

前記の書の繪柄を取りて、大きく繪を書き、別に頭書に源氏物語の解說を附す。彩色刷口繪あり。李園主人の序文あり。これらは何れも前記の書にはなし。（著者）

京紫源氏髪（ゲンジのあげまき）　一卷　村山春豊　（刊本）

春豊（夏五郎）畫作、明治初年刊、小本。卷名、源氏香圖、卷名出所歌を繪畫の餘白に載す。（著者）

なほ此の類には、俤源氏五十四帖（香蝶樓國貞）、紫式部源氏かるた（國貞）、源氏後集餘帖（歌川豊國）、源氏五十四帖（豊國）、今源氏錦繪合（豊國）、今樣擬源氏（豊國）、源氏香の圖（豊國）、現時五十四帖（豊原國周）、源氏雲浮世畫合（一勇齋國芳）、和漢準源氏（國芳）、田舍源氏五十四帖（一蕙齋芳幾）、源氏五十四帖（尾形月耕、明治二十五年刊）等の田舍源氏以後に出でたる錦繪の源氏繪は甚だ多し。

源氏物語繪樣　一卷　（寫本、未見）

源氏圖抄　一卷　松岡行義　（寫本）

此の他、源氏繪本には浮世繪師の描けるもの種々あり。今省畧す。

桐壺のみ。種々の名目をあげて繪卷物類より繪圖を臨寫して說明す。多く彩色繪、弘化四年成。（無）

源氏類聚抄　四卷　松岡行義　（寫本）

末摘花まで。圖抄と同樣の書。圖抄よりも簡畧なり。圖抄より以前に成れるものと云ふ。（無）

源氏物語考證釋圖　二卷　有住齋　（寫本）

桐壺のみ。源氏圖抄と似たる書。圖抄をも引く。但し彩色畫にはあらず。明治廿三年成。（帝）

源氏物語器物考　一卷　（寫本）

器物衣服の圖をあげて考證したり。（無）

源氏裝束文化考　三卷　中野貞利　（寫本）

裝束調度音樂に關する文章を抜き稀に註解を加へ圖を挿入す。卷の順に拘はらず抽出す。原文抜萃書に近し。（阿）

源語圖鈔　一卷　山本正臣　（寫本、未見）

十六、內容不明

源氏參註　十五卷

源註餘意　林國雄

源氏物語註　五十三卷　齋藤彥麿

源氏物語大全　百二十五卷　村田春雄

內容不明

源氏物語評註　野々口隆正

源氏童蒙抄　十巻

源氏水月抄　十巻　里見義

源氏家傳抄　三巻　山岡元隣

源氏演說抄　一巻(四十三巻?)　石野廣道

源氏吐屑鈔　十一巻

源氏物語折衷　一巻　日野直麿

源氏拾要　三十五巻　井上賴母

源聞秘抄　一巻

源氏物語清風抄　六巻

源氏物語自受用抄　一巻

源氏四海入海　三十巻　釋興隆

内容不明

源氏物語探海鈔　二百五十卷　釋與隆

源氏秘傳錄　三卷　釋與隆

源氏吏部彩管　二十四卷

二儀源流圖　一卷

源氏大繩（並入楚抜書）　一卷

源氏卷々畧肝要　一卷

中院之御流源氏物語傳來圖　一卷（天保二年、節佳堂寫）

源氏若竹（諺紫田舍源氏に出づ）

和漢字抄（岷江入楚に出づ）

源通釋抄（同）

新河海　九冊（内五卷目闕ク）（辨疑書目錄に出づ）

源氏素源仙傳抄　三十冊（同）

内容不明

源語秘訣校正　近松茂丘（群書備考所引古樣圖鑑跋文）

補　遺〔和歌抄出〕

このはな帖　一卷　橘千蔭（刊本）

源氏物語中の和歌を抄出して、千蔭風の習字帖となしたるもの。

源氏物語研究書目年表

一、此の年表は、本書の中に現れたる書名・人名の年代の明かなるものに限り、これを年代順に掲げたものである。本表に、源氏物語の書寫及び講義に關して、諸記錄類に見える記事を參照して加へたならば、源氏物語研究史年表として、ほぼ完全に近いものが出來上るであらう。

一、著書の製作年代の明かならざるものは、著者の歿年又は他の著書の成稿年代を掲げて、その著者又は著書の前に、書名を掲げた。

一、矢印は、→はその年以後の作、←はその年以前の作、⇄は、ある年にその製作が始められて、他の年に、その著が出來上つた場合、又は、その矢印の

含む年間に、その書が出來上つたと云ふ意味、又、ある一年間に⇄の附せられてゐる場合は、その年の前後に、その書が出來上つたと云ふ意味である。

一、上段は天皇、次は日本紀元、次は年號、次は書名著者名、下段はその書名事項等の出てゐる本文の頁數である。

一、時代を政治史的に分けたのは、かうした學術的研究の歷史が、とかく政治的社會的背景と分離して考へられ、兩者の觀念の一致しない事が多いのによるのである。

一、江戸時代の著書を、明治時代に複刊した書は、それが、新に索引を附けるか、增註を施したとか新しい意義があるものに限つて揭げ、原本通りの飜刻本はすべて省略した。教科用書の源氏物語、又、文學史その他、ある著書の一部に、源氏物語に關する論文等を含めるものもすべてこれを省略した。講義錄、雜誌の類も同樣である。但し、單行本として別に刊行せられたものは加へた。

鎌倉時代

後鳥羽	一八五〇	建久元年	→源氏物語釋（藤原尹行）	三
土御門	一八六四	元久元年	源氏木芙蓉奥書（此の奥書は僞作）	六〇
			→源氏物語表白（安居院聖覺）	一二一
四條	一八九五	嘉禎元年	安居院聖覺寂	
			→水原抄（源光行）	四
		同	源光行存生	
		同	→源氏物語奥入（藤原定家）	三
			→源氏卷名和歌（藤原定家）	一二三
	一九〇一	仁治二年	→藤原定家歿	
			→水原抄增補（源光行親行）	四